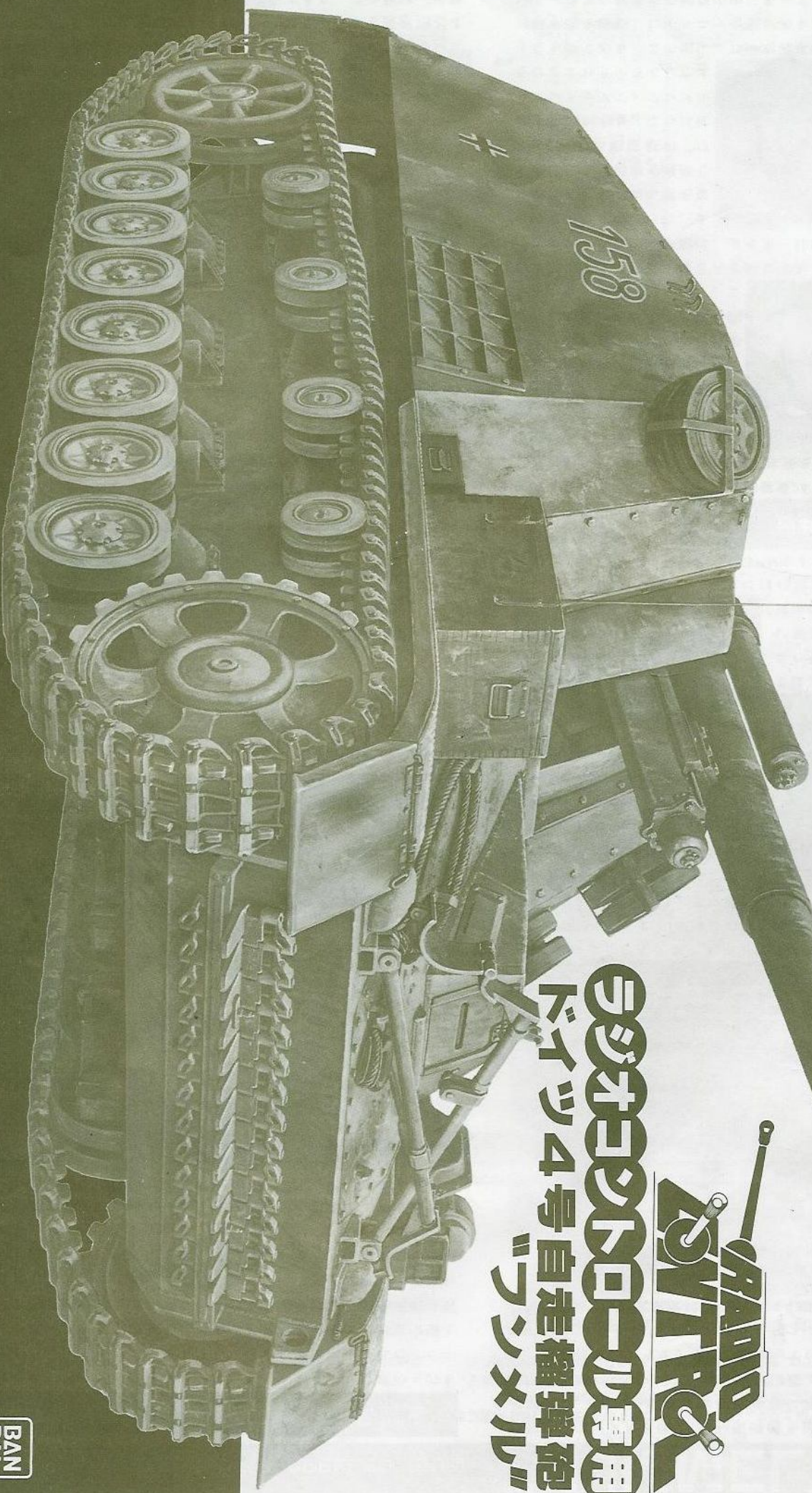


1/15 Scale BIG TANK COLLECTION “
GERMAN HOWITZER
SELF PROPELLED 4

”
HUMMEL

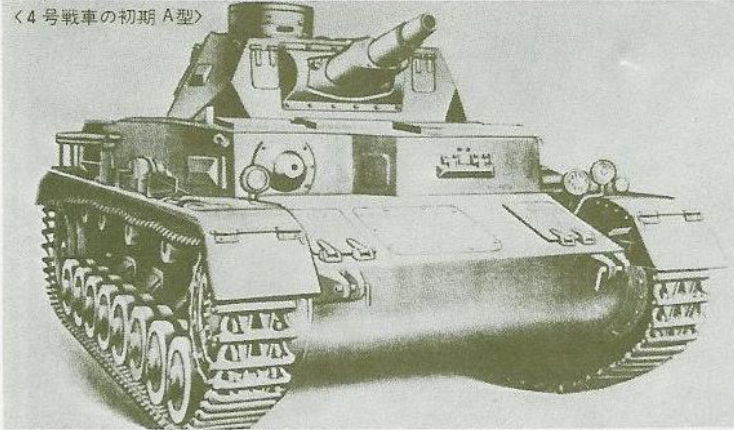


**RADIO
ZYTRON**
ラジオコントロール専用
ドイツ4号自走榴弾砲
“ラッメル”

150mm巨砲 “フンメル” の母体は4号戦車

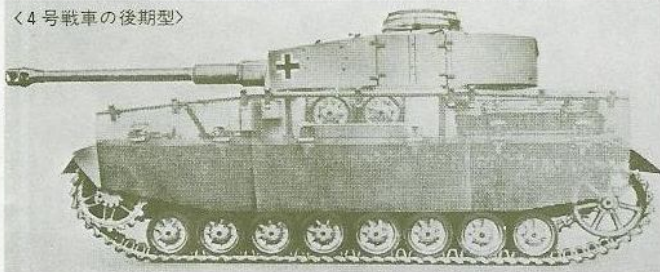
第二次大戦中、ドイツ軍は戦闘車両として、さまざまな種類のものを作り出した。そのほとんどがすばらしいもので実用化された。が中でも、ドイツ軍の作戦を意のままにし次々と成功させることの立役者となったのが4号戦車だった。ドイツ軍戦闘車両の中にあつて圧倒的多数の生産数をほこっている。A型からK型まであり、約9,000両が生産されている。しかし4号戦車も初期型は、まだまだ戦車としての迫力に欠けるころがあつた。(他の国のものよりは、はるかにすぐれていた。)それは先ず装備の砲が、24口径75mmという短砲身だったので、どうしても破壊力にとぼしかった。また装甲の点についても、前が16mmから20mm、

〈4号戦車の初期A型〉

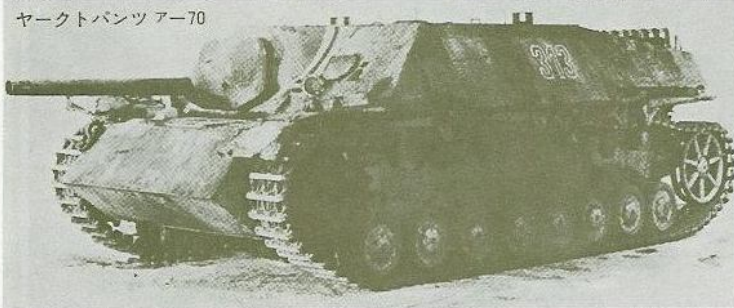


側部が13mmと、後の簡易装甲板をもつたフンメルよりうすかったことになる。ただエンジンなどメカニックについては、相当に信頼性が高かつた。そのため、車体、足まわりの変更はなされず、搭載砲や、装甲の強化が型ごとに変更されていった。1944年3月から、4号戦車の最終型となるJ、K型が出現した。この時の装甲が、実に初期型の4倍、80mmとなつていた。この4号戦車のドイツ軍に対する貢献度はすばらしいもの

〈4号戦車の後期型〉



で、各地の戦線で、その力を十分発揮してきた。そのため、ドイツ軍は、この4号戦車の機動性をいかし、新しく火力支援になる車両を考えだしたのである。だから、この車体流用の車両は数多くある。そのひとつに、狩猟戦車(ヤークトパンツァー70)がある。歩兵攻撃の火力援護を主な目的としたもので、いわゆる駆逐戦車といわれるものである。この車両が4号戦車系統としては、最大数量の2,220両で、その次に、フンメルの666両がつくのではないだろうか。またこの系統で、4号戦車B型の車体ヤークトパンツァー70



を利用したホイシュレツケというのがあるが、これは、フンメルより一まわり小さい105mm榴弾砲を搭載している。これは、試作のみに終わったが、弾薬運搬及びホイスト装置をもっており、このホイストをあげると、バツタのかっこうと似ているのでこの名がついている。次に、4号シュトルムゲシュツがあるが、突撃砲としては一番新しい。3号突撃砲とよく似ているが、足まわりをみるとひとめで判別できる。この型は、当社から1/15スケールで発売され、人気をくしている。その他に4号戦車

系列で、フンメルと同じ150mm榴弾砲を搭載しているのがある。ブルムベア型で、装甲歩兵車隊加農砲中隊に装備され、歩兵部隊の重火力支援用としてもちいられている。フンメルとちがいが短砲身で、ボディ形状は、駆逐戦車のようなデザインになっている。

目 後に、4号系列で、最大の口径をもつ“フンメル”は、30口径150mm榴弾砲を搭載し、重量40kgのHS弾を、初速520m/sで、最大射程13,300m

大口徑150mm榴弾砲の威容



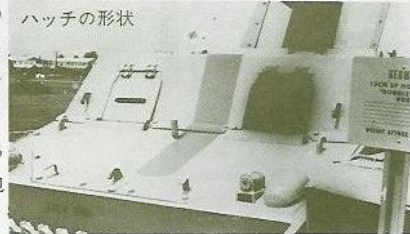
までとぼすことができる。戦車師団の後方にあつて、火力支援の役割を十分に発揮した。この榴弾砲のベースとなっているのはドイツ軍の野戦榴弾砲18型で、重量は、砲だけで8.8トンあり、8t牽引車などで牽引されている。これは、1939年以来、ドイツ軍で使用されていたものである。フンメルの特徴として野戦榴弾砲S.F.H.18型



最大仰角をとつた“フンメル”の150mm砲

ては、オーブントップの戦闘室で、まわりを、20mmの装甲板でかこっている。主砲の構造としては垂直複胴式油気圧駐退複座装置を用いて、仰角-3度から+14度で、左右には15度旋回する。動力装置は265HP/2,600rpmのマイバッハHL-120 TRM型4サイクル・V12シリンダ・水冷式ガソリンエンジンとなっている。主として戦車師団の中にあつて、砲兵大隊に装備され、乗員6名、車長、砲手、ドライバー、通信手装填手2名の人員構成になっていた。全備重量24トン。全長7.17m、全幅2.97m、全高2.81mが主仕様で、約670両が生産されている。ボディの形状に2種

ハッチの形状



チースホルンとマルダー



の型がある。運転席と通信席のハッチ前方に二つともつきでているのと、そうでない左側だけのものとある。後者の方が多くみかけられる。フンメルの兄弟分として他にあるのは、88mm砲をもつチースホルンがあり、これは、ボディ形状までほとんど同じであるが、車長がこっちの方が長くできている。この88mm砲は、タイガーIIに搭載されているものと同じでその威力はすこかった。また弟分として、最も有名なものに、2号戦車を流用した105mm榴弾砲搭載の“ヴェスペ”がある。これはオーブントップで、フンメルをひとまわり小さくしたようなものである。この他に、75mm対戦車砲を搭載したマルダーや、88mm対戦車砲を搭載したホルニッセ型がある。フンメル型は、これらのオーソドックスな戦車外の戦車の中にあつて、その目的である戦車師団の火力支援としての役目を十分果たしたといえるようだ。

注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品を口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところに保管し、3歳未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れの恐れがあります。下記に注意してください。〉
- 万一、電池から漏れた液が目に入った時は、すぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。ひふや服に付いた時は水で洗ってください。
- 充電式（ニカドなど）電池は、絶対に使用しないでください。
- 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池をまぜて使わないでください。
- +（プラスマイナス）を正しくセットしてください。
- 遊んだ後は必ずスイッチを切り、電池をはずしてください。
- ショートさせたり、充電、分解、加熱、火の中に入れてたりしないでください。

《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に必ずお読みください。
 - 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取ってください。切り取った後のクズは捨ててください。
 - 安全性を考慮して、乾電池以外を電源とする改造を行わないでください。破損の恐れがあります。
 - 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
 - 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
 - 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 - このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別に用意ください。
- ※このキットには、接着剤は入っておりません。お手数ですが、プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

ラジオコントロール安全操縦のために

ラジオコントロール操縦は、やってみると、つきない魅力があるものですが、その反面、電波を取り扱うので危険がともないます。電波障害事故、操縦ミス事故などが起らないように、次のルールをよく守り、安全な正しい操縦法を身につけてください。

- 人、建物、その他の建造物より充分にはなれた場所で行いましょう。
- 鉄道線路、道路では、絶対に走らせないようにしましょう。又、危険な場所（送電線、変電所配電所など）付近での操縦はやめましょう。

- 幼児にさわらせないようにしましょう。
- 走行の際は、ラジコン送信機の管理、受信機のスイッチのON・OFFを確認しましょう。
- 初心者は熟練者に付き添ってもらいましょう。
- 十分に整備された模型で走行しましょう。走行を行うたびに必ず点検し、動作の確実、安全性などの確認を行いましょう。
- 電源、送信機、受信機などの安全性をチェック又はテストする習慣をつけましょう。
- 幼児のいる場所では走らせないようにしてください。電動式でもギヤの回転は強力危険です。



《お客様へ》

次の商品はキットの中に含まれておりません。別にお買い求めください。

- 2チャンネル、2サーボの送・受信機
- RS-380PHモーター2個
- 単一乾電池（R20P）6本、送・受信機用電池
- 充電式（ニカドなど）電池、アルカリ乾電池は絶対に使用しないでください。
- 電池耐久時間：連続約40分

走行上の注意

《スイッチの操作》

- 送信機、受信機のスイッチは、下の順番に操作してください。スイッチ操作の時は、送信機のスティックを停止の状態にしておきます。

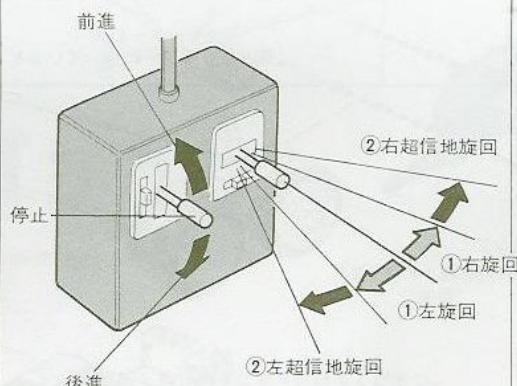
走らせる時

- ①送信機…ON ②受信機…ON

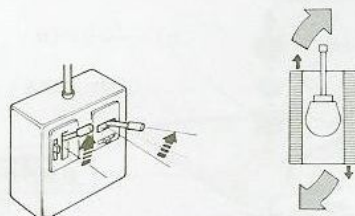
停止する時

- ①受信機…OFF ②送信機…OFF

《スティック操作》

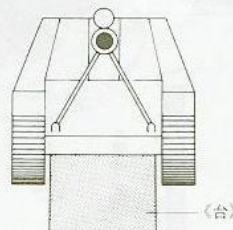


- 左側が前・後進用スティック、右側が左右旋回用スティックです。
- 図のようなスティック操作で左右の急旋回（超信地旋回）ができます。



〈右超信地旋回の場合〉

- 戦車を走らせる前に、台の上に戦車を置き、ならし運転を行うとよいでしょう。ギヤ回転部にはスプレーオイル又はシリコンオイルをつけてください。



走らなかった場合は、次の点について調べてください。

- ①配線はまちがっていませんか？
 - ②スイッチが正しく入っていますか？
 - ③電池の向きがまちがっていませんか？
 - ④電池が古くありませんか？
 - ⑤電池の接点が接触不良になっていませんか？
- ※以上もう一度説明図、解説書を読み直してください。

走らせる場合、次の事を守ってください。

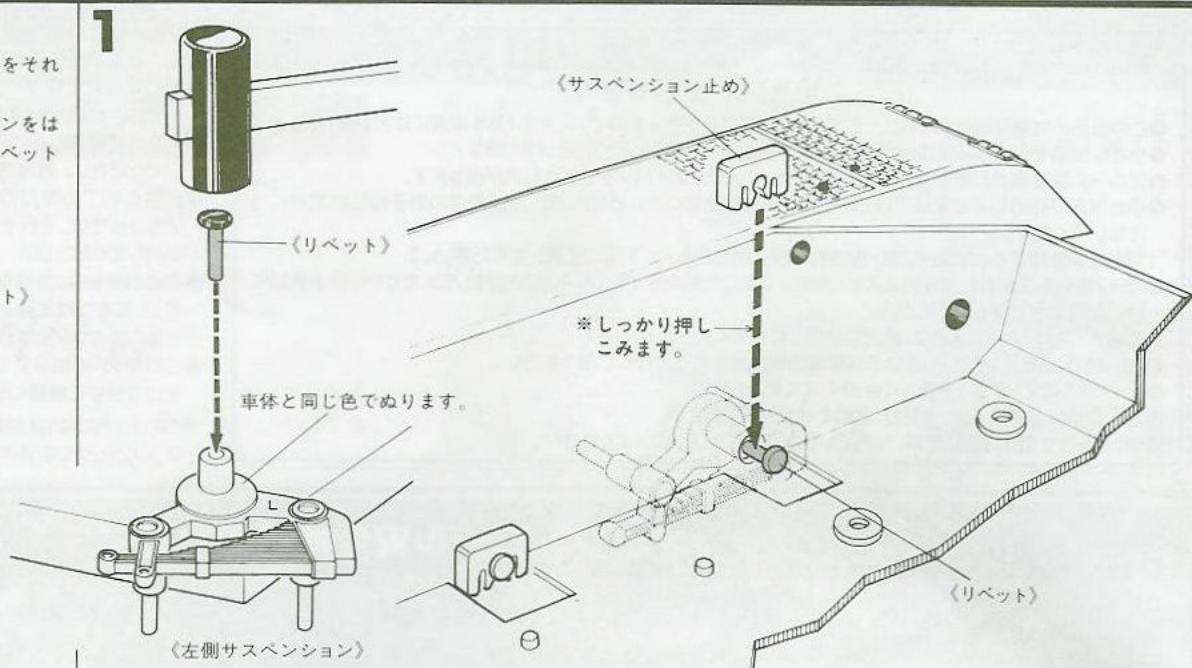
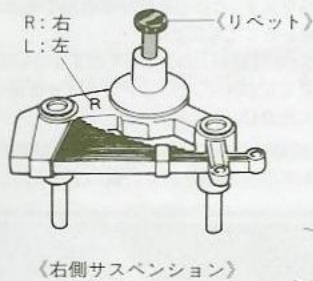
- ①走行中の戦車のキャタピラには手をふれないでください。
- ②水たまりを走らせたり、戦車に水がかぶったりするとショートの原因となり大変危険です。特に注意してください。
- ③砂地やじやりの多い所の長時間走行は、電池の消耗を早めます。5分走らせたら5分休むようにすると電池が長持ちします。



- ④カベやへいにつけたり、溝に落ちたりすると破損の原因にもなります。注意しましょう。
- ⑤雪や氷の上など、特に-5℃以下の場所で長時間走行させるとダイカスト部品が弱くなる可能性があります。充分注意してください。

1 《サスペンションの取り付け》

- 左右のサスペンションにリベットをそれぞれ打ち込みます。(8組)
- シャーシーに左右のサスペンションをはめこみ、サスペンション止めをリベットにはめこみます。



2 《モーターの取り付け》

- ギヤボックスにモーターをモータービスで取り付けます。
- モーター軸にホーロービスで、ピニオンギヤを取り付けます。

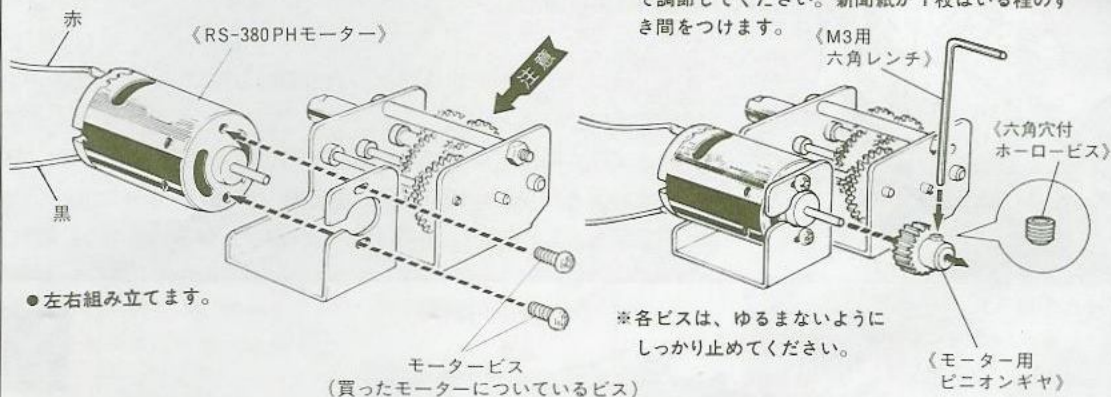
注意

モーター止めビスやホーロービスには、ネジロック剤(別売り)をつけると、走行中にゆるんだりしなくなります。

2

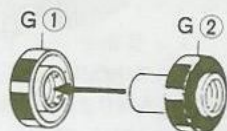
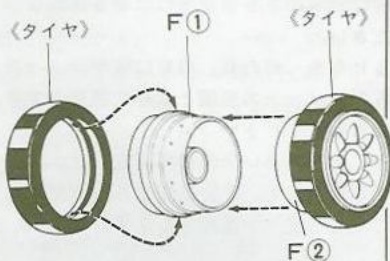
- 各ギヤ、シャフトにグリスなどつけると回転がよくなります。

※ギヤの回転テストをしてください。ピニオンギヤのかみあいがかたい時は、モータービスをゆるめて調節してください。新聞紙が1枚はいる程のすき間をつけます。



3 《転輪、遊輪の取り付け》

- F①、F②にタイヤをはめ、接着します。20組作ってください。
- 転輪をサスペンションにはめ、H②をサスペンションに差しこみます。
- 遊輪G①、G②を接着します。(8組)そして、ハトメ、M3×22mmビスで、図のようにシャーシーに取り付けます。
- 遊輪の取り付け個所にL⑥を接着します。

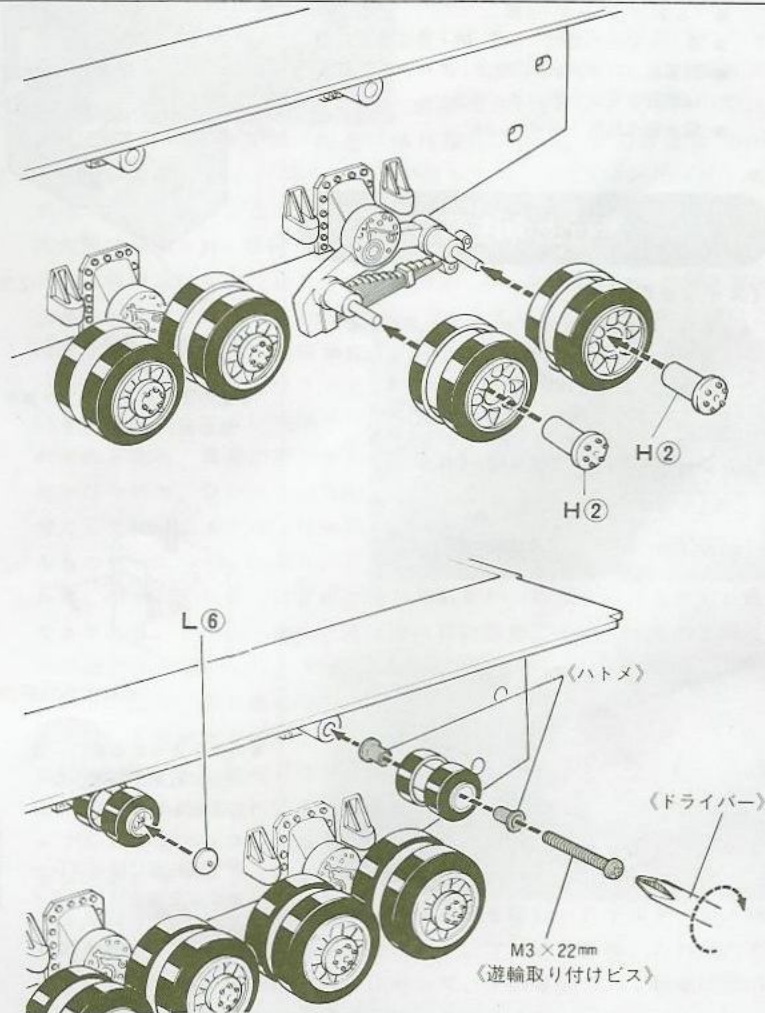


遊輪の外がわの部分をつや消し黒で塗ります。

《注意》遊輪取り付けビスは、遊輪が回転する程度にねじこみます。

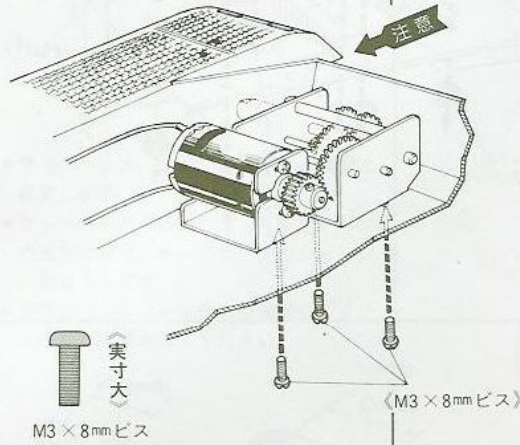


3



4《起動輪の取り付け》

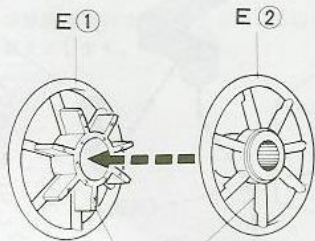
- E③とE⑤、E④とE⑥を接着します。
- 左右のギヤボックスをM3×8mmビスでシャーシーに取り付けます。
- 起動輪をM4×10mmビス、スプリングワッシャー、ワッシャーでギヤボックスの軸に取り付けます。
- 起動輪にキャップH④を差しこみます。



《M3×8mmビス》

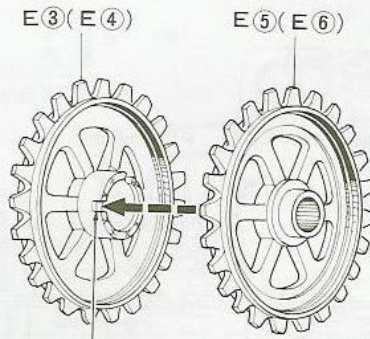
5《誘導輪の取り付け》

- 誘導輪E①、E②を接着します。(2組)
- M3×10mmビス、M3用ワッシャー(小)、スプリングワッシャー、ナットで誘導輪軸をシャーシーに取り付けます。(左右)
- 図のように誘導輪を取り付けます。



スポークを合せて接着します。

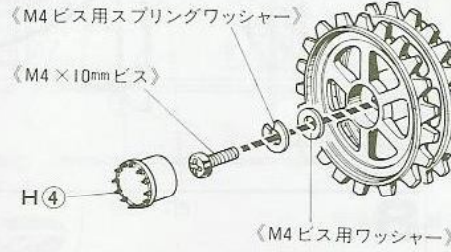
4



※このミゾに合せて接着します。

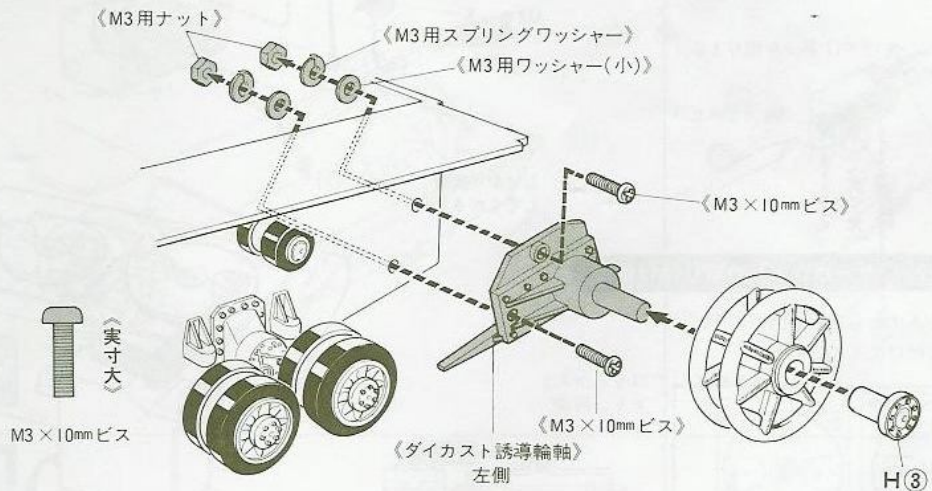


《M4×10mmビス》



※右起動輪も同じように取り付けて下さい。

5

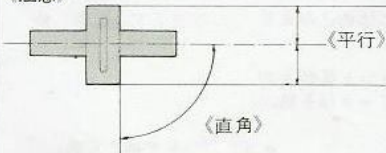


※右誘導輪も同じように取り付けてください。

6《スイッチ板の組み立て》

- 円板A、Bに接点金具をはめこみます。

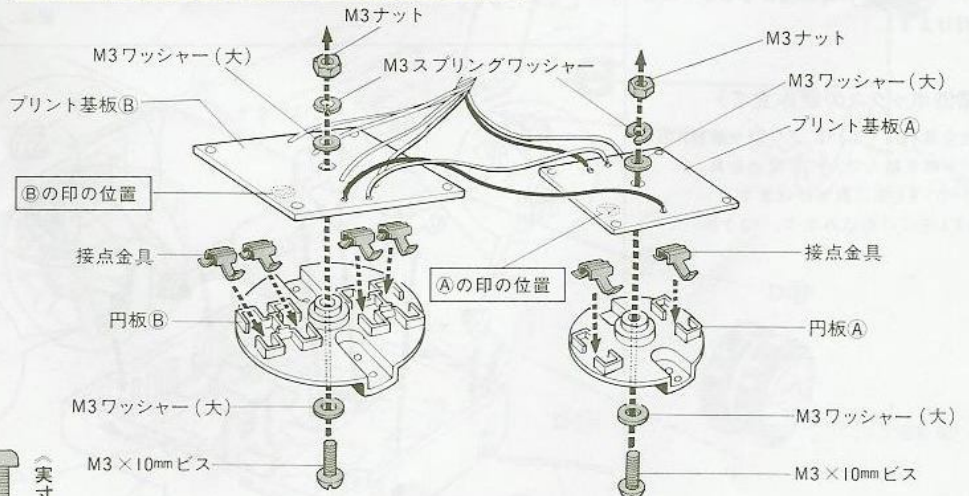
《注意》



- 接点金具が上図のようになっているか確かめてください。ゆがんでいた場合は、上図のようになおしてください。
- そしてプリント基板A、Bを円板A、Bの上に置きM3×10mmビスで、図のようにスイッチ板を組み立てます。
- ※プリント基板A、BにはいているA、Bの記号の位置に注意してください。

6

※プリント基板AとBを中央で折り、はなしてください。



《M3×10mmビス》

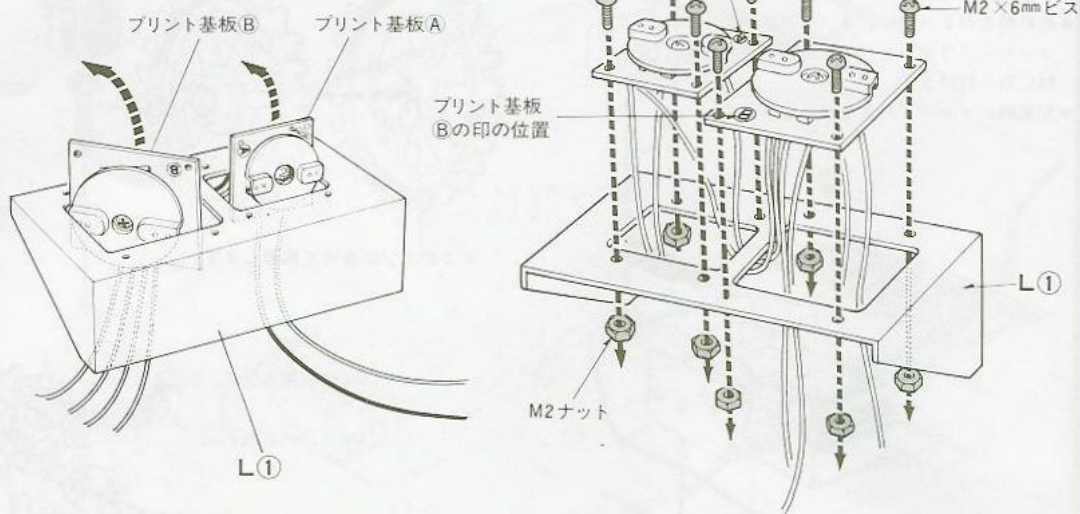
ラジオコントロール部品の組み立て

7 <スイッチ板の取り付け>

- 6図で組み立てたスイッチ板をL①の四角孔へ下から上に通してください。
- プリント基板A、BをビスとナットでL①に固定させます。
- ※ プリント板のA、Bの印の位置に注意してください。

別にお買い求めの送・受信機のスティック操作、サーボの回転方向がメーカーによって異なる場合があります。その場合、モーターの回転方向が逆になる場合がありますが、その時はモーターとプリント基板からの結線をつなぎかえてみてください。

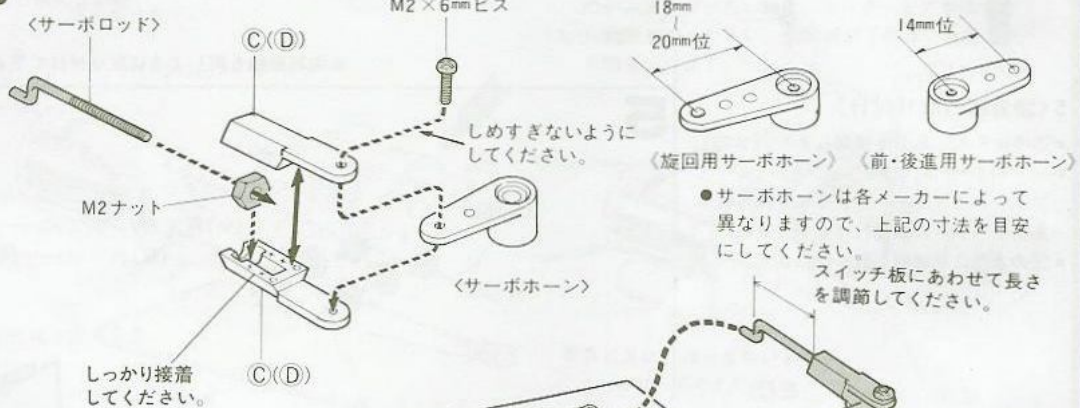
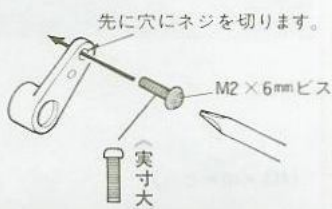
7



8 <サーボモーターの取り付け>

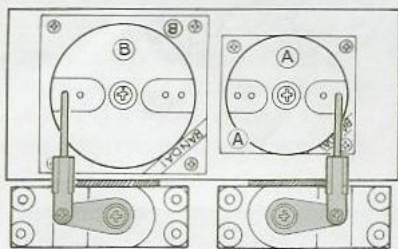
- M2ナットを間にはさみ、CとC(D)を接着します。
- M2ナットにサーボロッドをねじこみます。
- サーボホーンをM2×6mmビスで取り付けます。

8

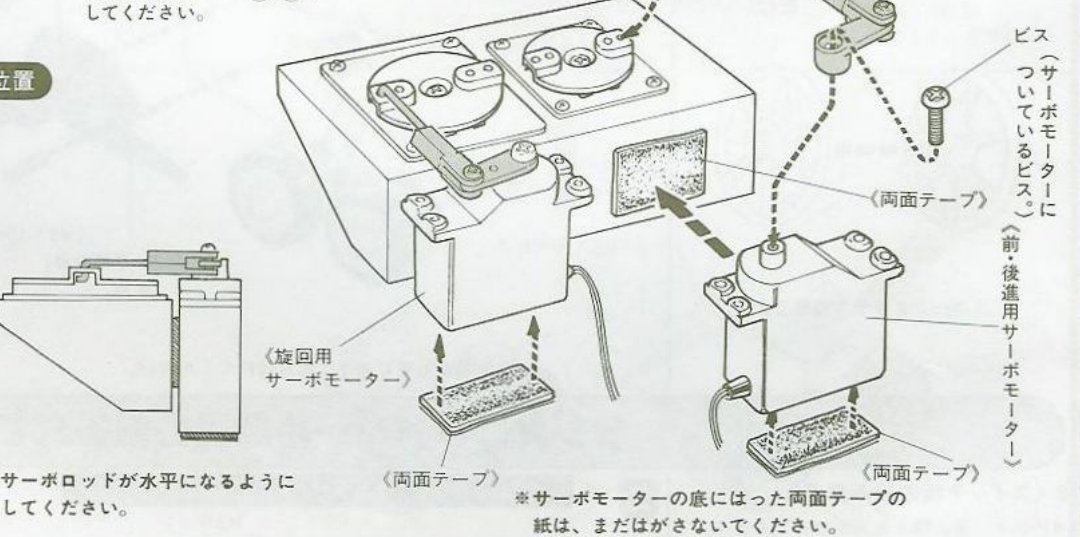


サーボモーター、サーボロッドの取り付け位置

- 下の図をよくみてから、右の図のように各部品を取り付けてください。



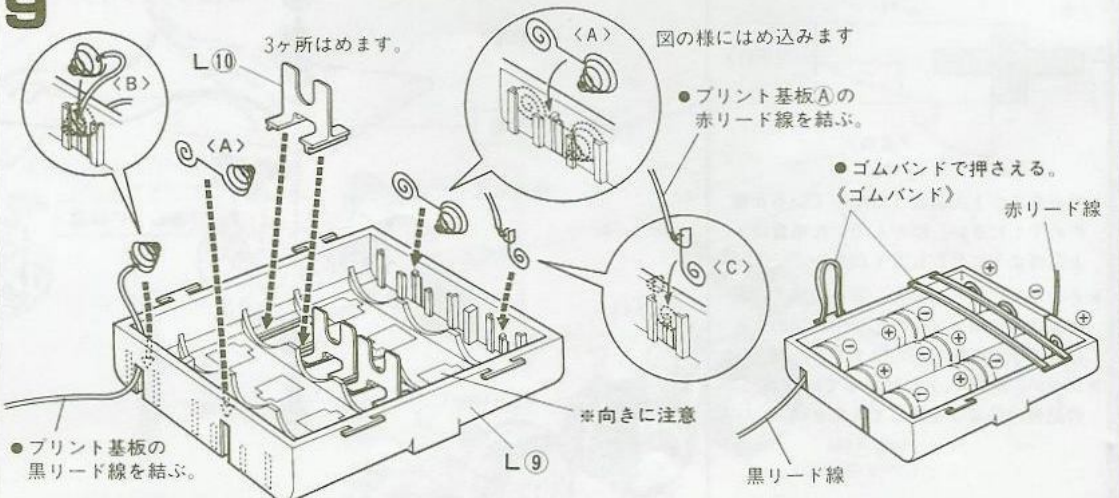
- ※ サーボロッドは、スイッチ板、サーボモーターに対してほぼ垂直になるように取り付けます。



9 <電池ボックスの組み立て>

- 電池金具・<C>にプリント基板Aのリード線を結んでから、電池金具<A>・・<C>をL⑨に取り付けます。
- L⑩をL⑨にはめ込みます。(3ヶ所)

9



- プリント基板の黒リード線を結ぶ。

図のようにはめ込みます

- プリント基板Aの赤リード線を結ぶ。

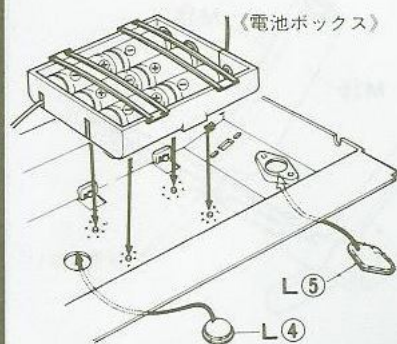
- ゴムバンドで押さえる。<ゴムバンド>

赤リード線

黒リード線

10 《配線》

- 受信機用スイッチをシャーシに取り付けてください。
- そして右の図をみて配線します。



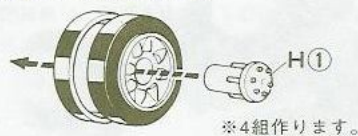
- 電池ボックス、L④、L⑤をシャーシに接着します。
- サーボモーターの底にはった両面テープの紙をはがし、サーボモータをシャーシに固定させます。
- 受信機は、シャーシ後部に両面テープでしっかり固定させていただきます。

- B⑭をシャーシ後部に接着してください。
- B⑭の接着剤が完全に乾いたら、受信機用電池をB⑭の上におきます。
- 受信機用電池のコードはシャーシの切り欠き部を通します。

11 《シャーシ後部の組み立て》

- 3図で組み立てた転輪2個にポリキャップH①をはめこみます。

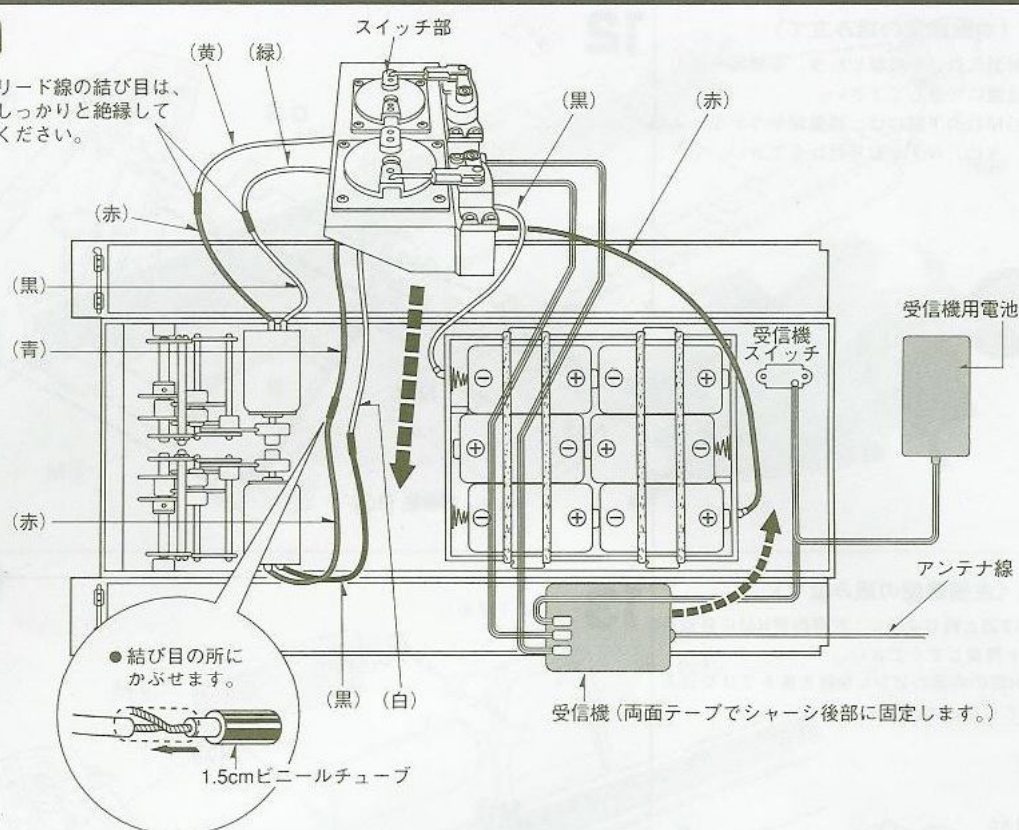
《予備転輪の組み立て》



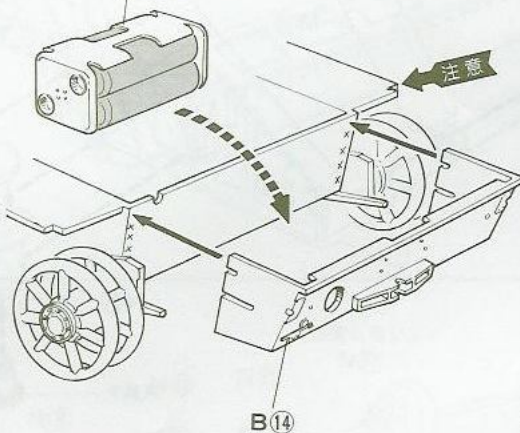
- B⑭に各部品を接着します。
- 予備転輪は、D⑳の接着が完全に乾いた後、接着してください。

10

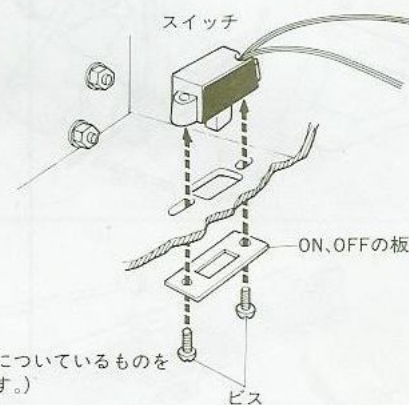
※リード線の結び目は、しっかりと絶縁してください。



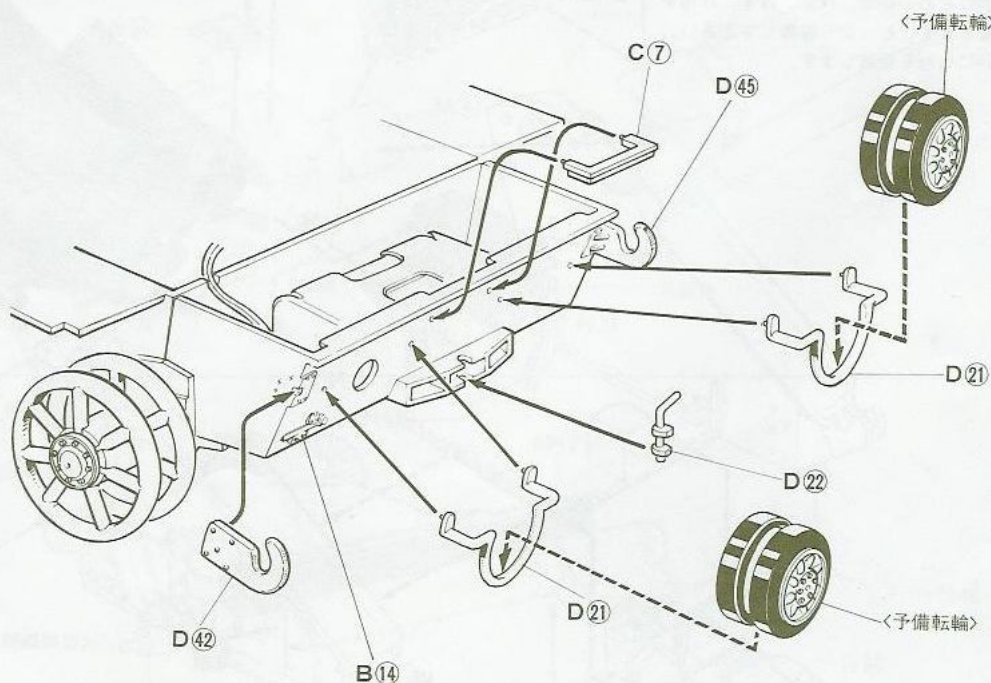
《受信機用電池》



《受信機用スイッチの取り付け》



11

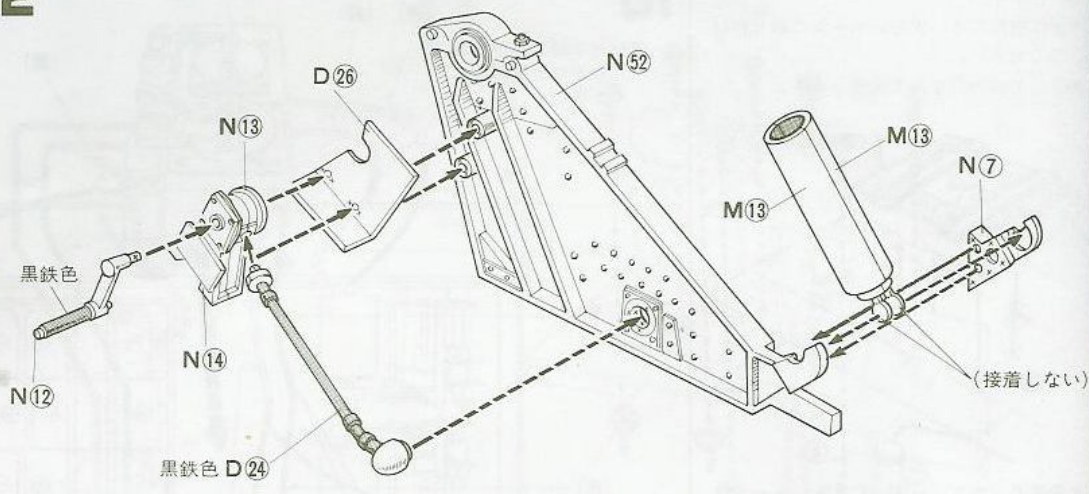
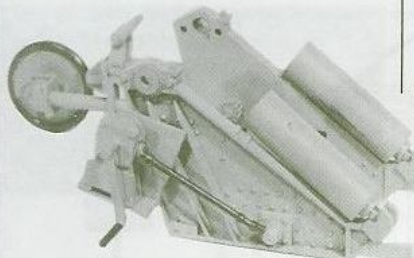


12

12 〈右側砲架の組み立て〉

■ N52にD26を接着した後、各部品を図の位置に接着して下さい。

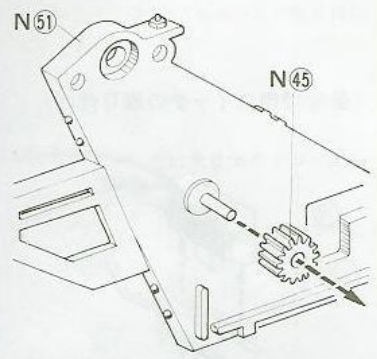
(注)M13の下部には、接着剤がつかないように、N7を取り付けて下さい。



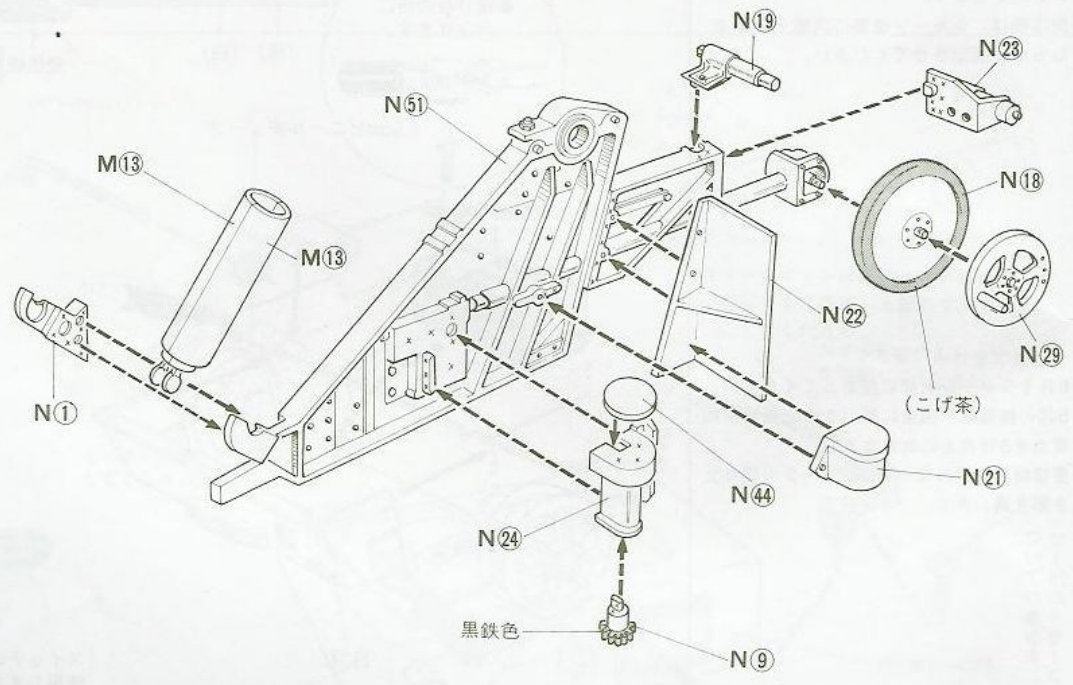
13 〈左側砲架の組み立て〉

■ 12図と同じように、左側砲架N51に各部品を接着して下さい。

■ N51の内側のピンにN45を奥まではめ込んで下さい。(接着しません。)



13

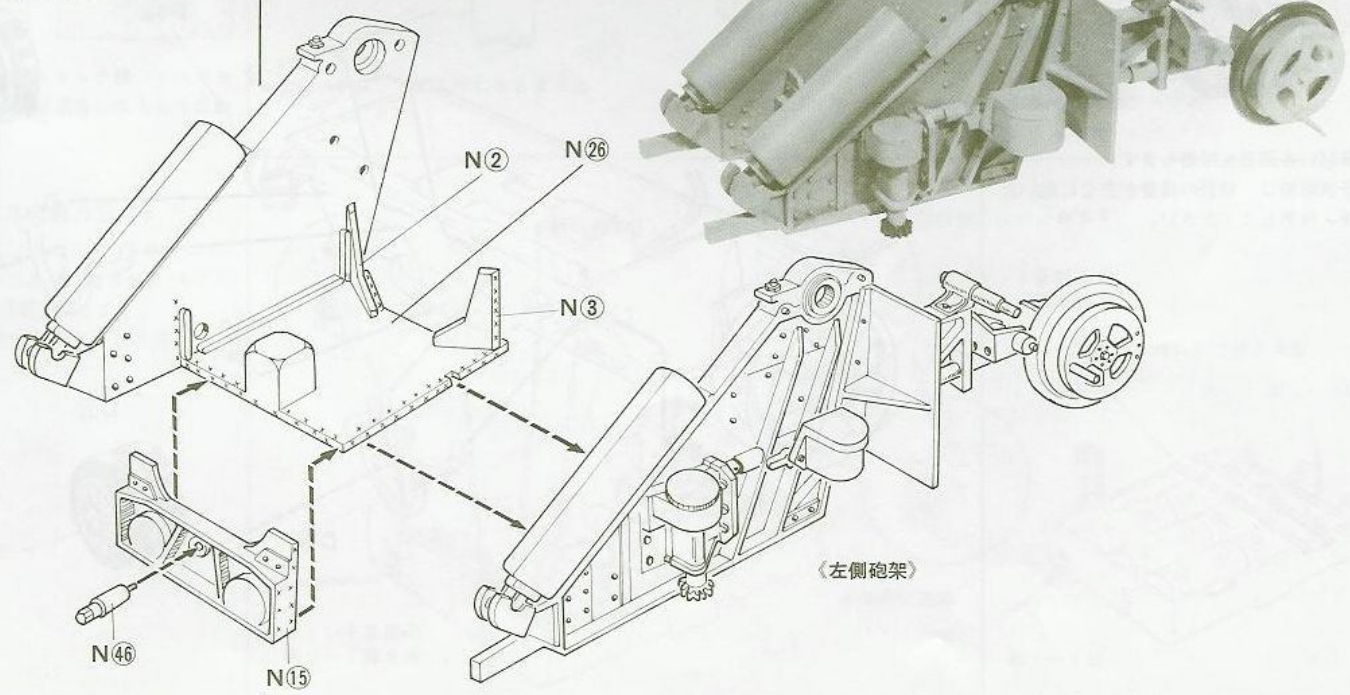


14 〈砲架の組み立て〉

■ N26に左右の砲架、N2、N3、N15を接着します。しっかり接着して下さい。

■ N15にN46を接着します。

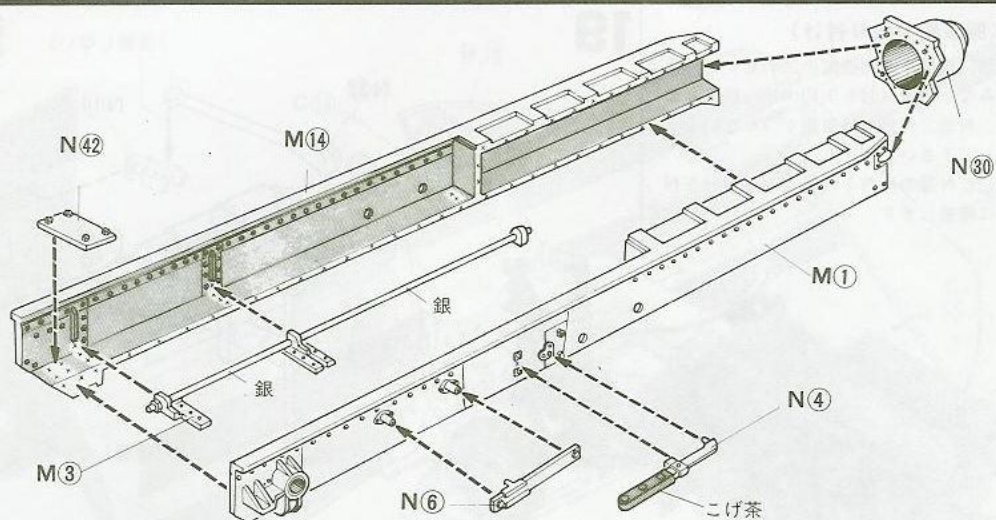
14



15 《揺架の組み立て》

- M14にN42、M3を接着し、M1とM14とN30を接着します。
- M1にN4、N6を接着します。

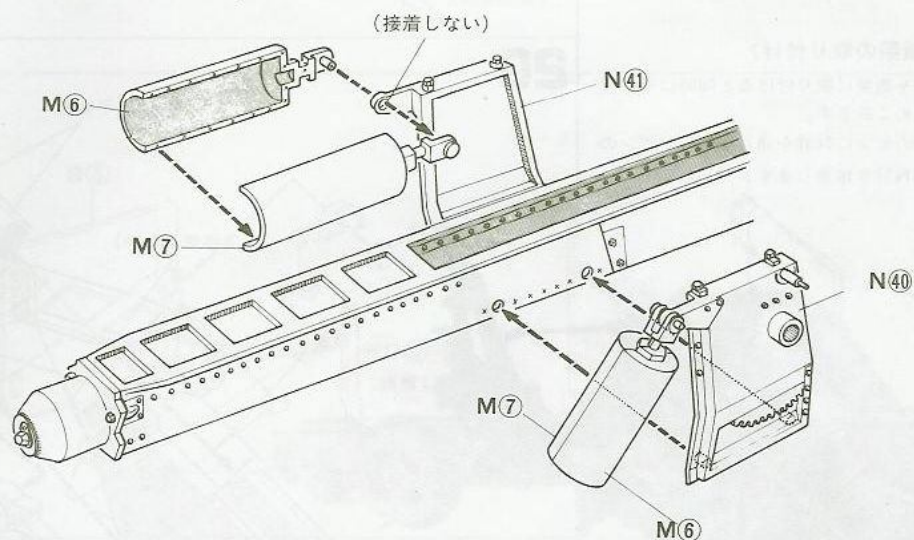
15



16 《平衡機の取り付け》

- N40とN41にM6、M7を取り付けます。N40、41の取り付け穴に接着剤がつかないように注意して下さい。
- N40、N41を揺架に接着して下さい。

16

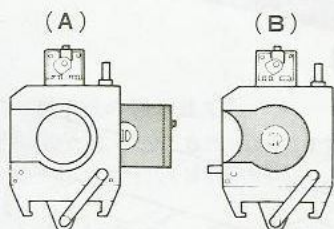


17 《砲身の組み立て》

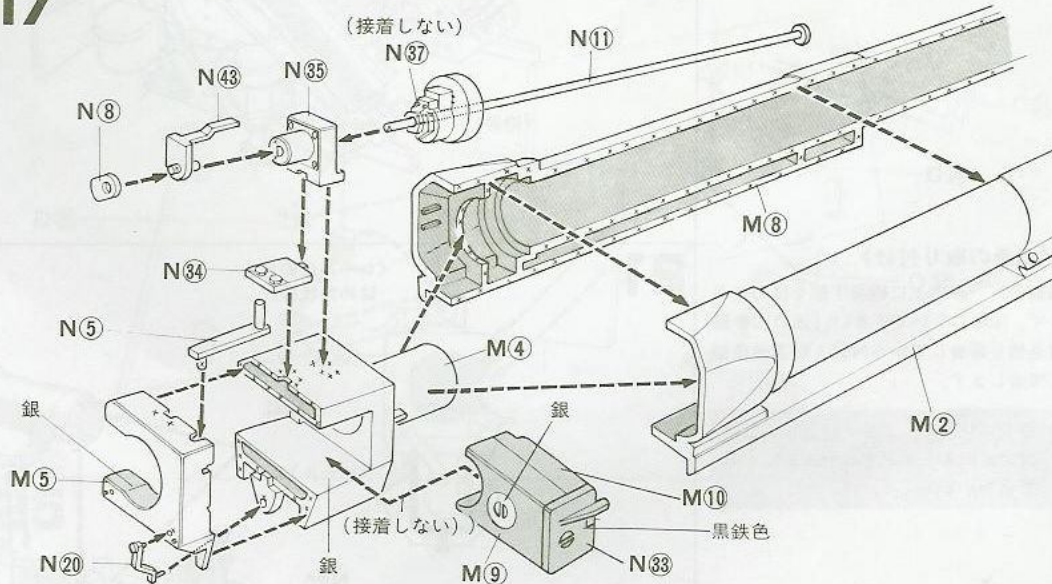
- M2とM8を接着してから、M4を接着します。
- N11にN37を通し、N11をN35に接着します。
- 各部品をそれぞれ図の所に接着します。

(注) M9、M10、N33を接着した物(閉鎖機)はM4には接着しないで下さい。

- 閉鎖機は、砲弾を装填する前は(A)の状態、装填後は(B)の状態になります。



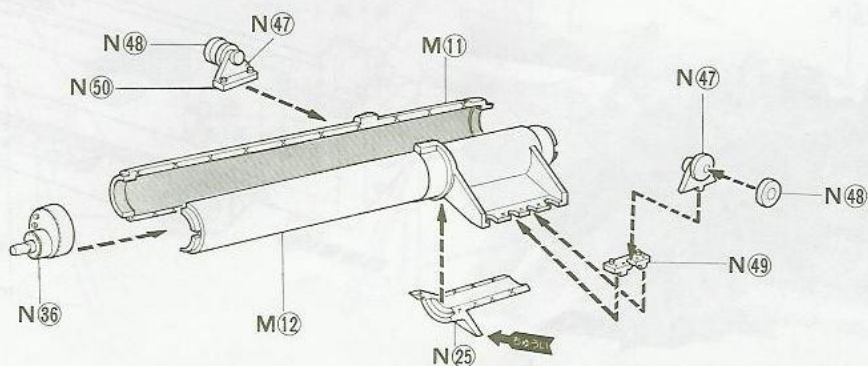
17



18 《駐退機の組み立て》

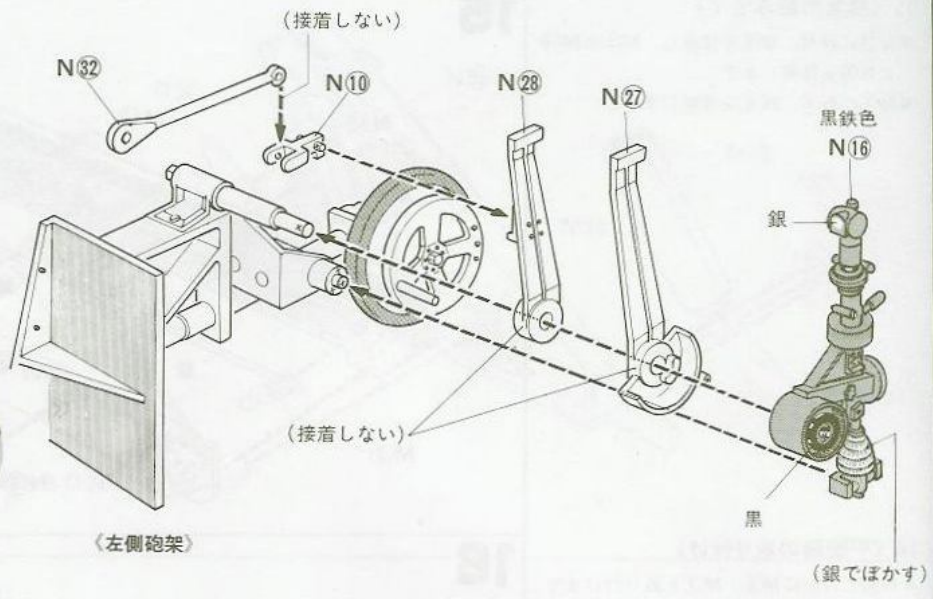
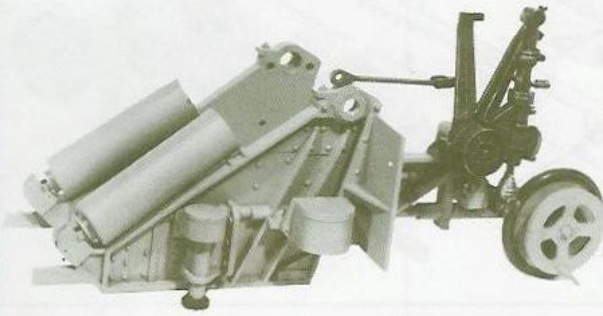
- M11とM12を接着してから、各部品を接着して下さい。

18



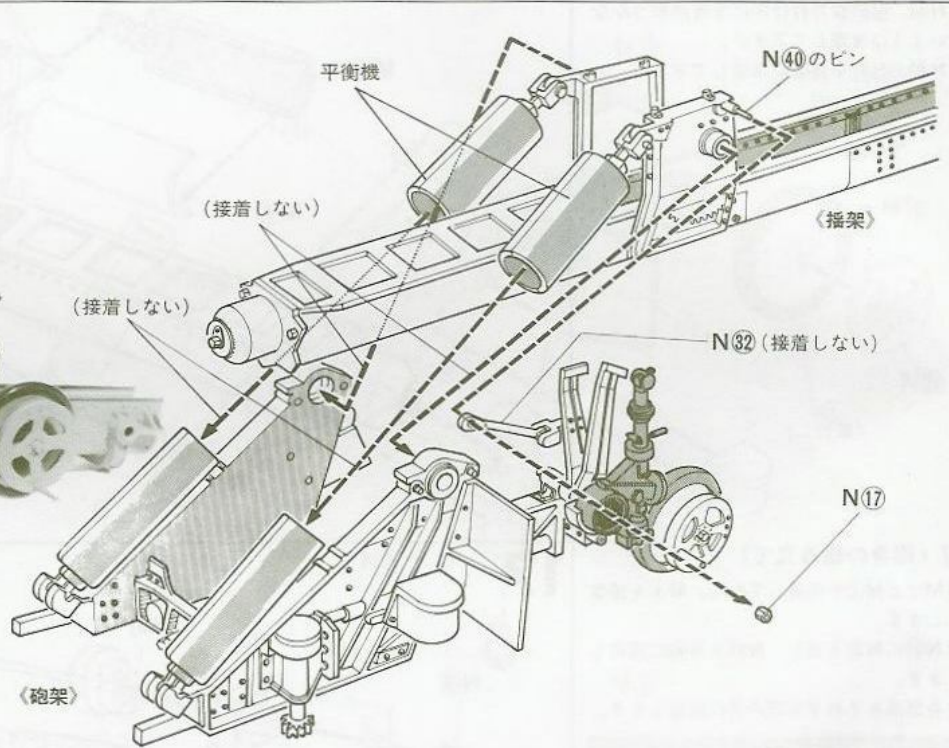
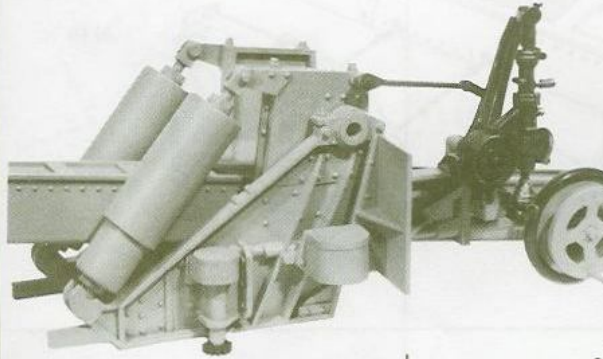
19 〈照準器の取り付け〉

- N28、N27を左側砲架の図のピンにはめこみながら、N16を矢印の所へ接着します。N27、N28に接着剤がつかないようにして下さい。
- N10にN32の片方をはめこみ、N10をN28に接着します。



20 〈揺架の取り付け〉

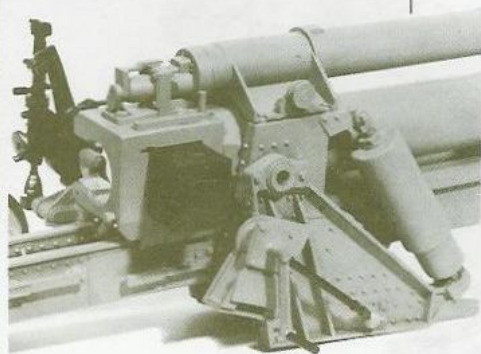
- 揺架を砲架に取り付けると同時に平衡機もはめこみます。
- N40のピンにN32を通しながら、ピンの先にN17を接着します。



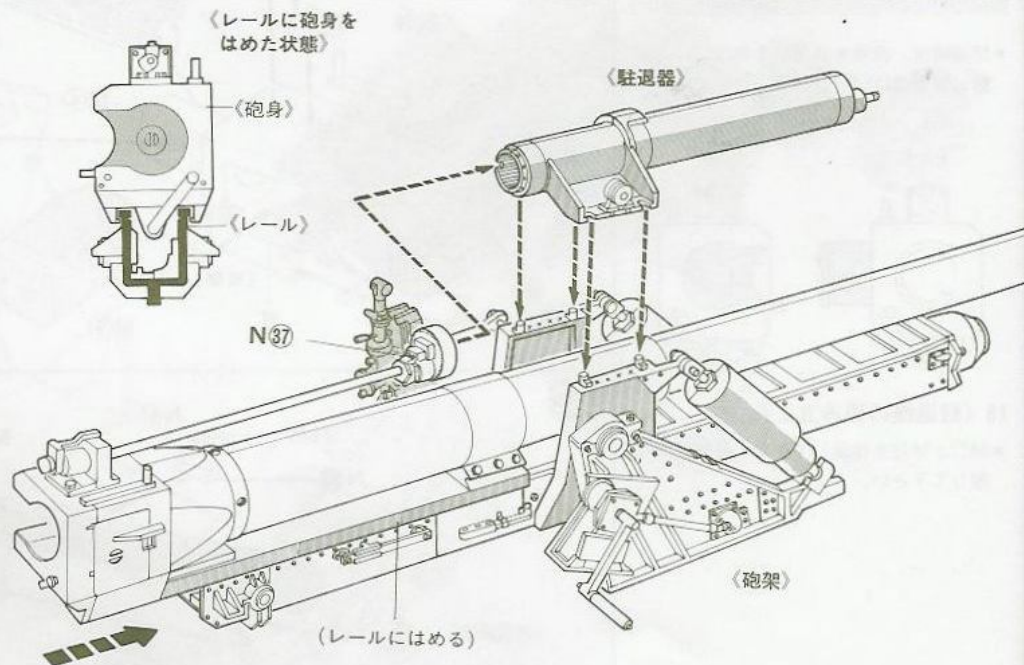
21 〈砲身の取り付け〉

- 揺架のレールの上に砲身下部をはめこみます。接着しないで下さい。(注の図参照)
- 駐退機を接着してからN37を駐退機後部に接着します。

(注) 砲身はレールの上をすべらせて、揺架の先のストップする位置まで持っていきます。



21

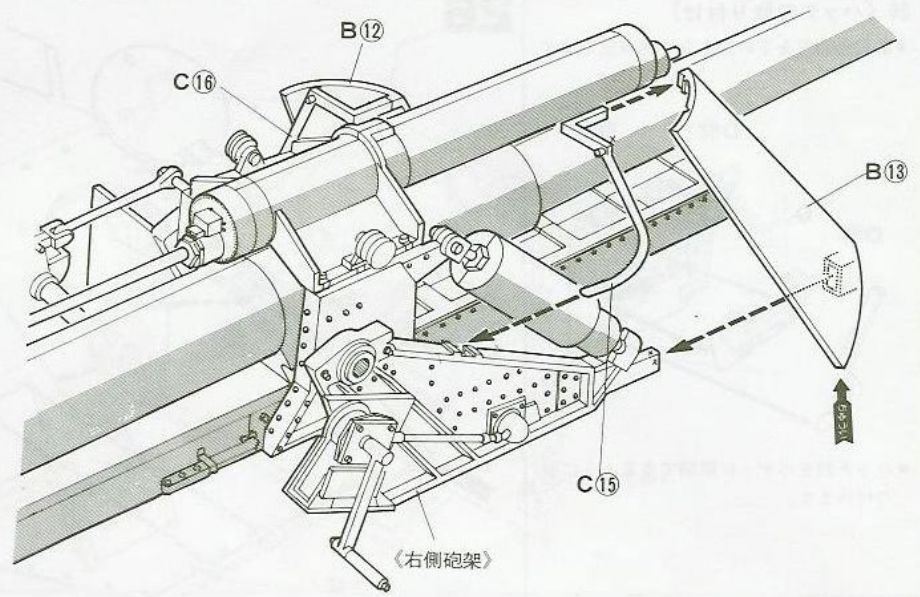


22 《防盾の取り付け》

- C16とB12、C15とB13をそれぞれ接着してから、C16、B12、C15、B13を砲架に接着して下さい。



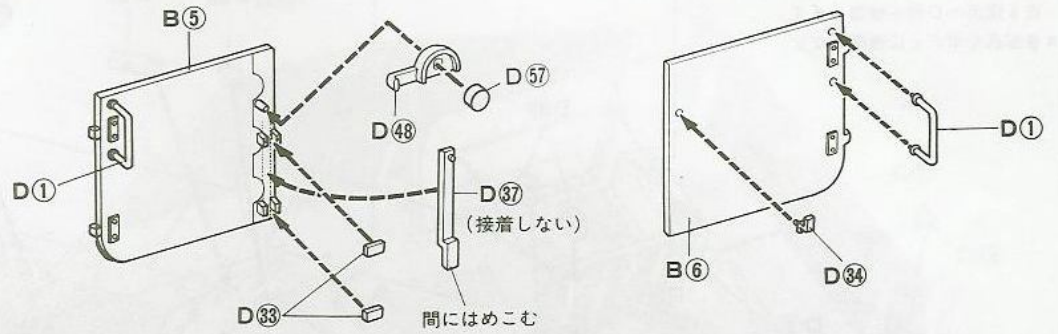
22



23 《後部扉の組み立て》

- B5にD37をはめこみ、D33をB5に接着します。接着剤がD37につかないようにして下さい。
- D48をB5のピンにはめ、D57をさしこみます。
- B5、B6にD1、D34を接着します。

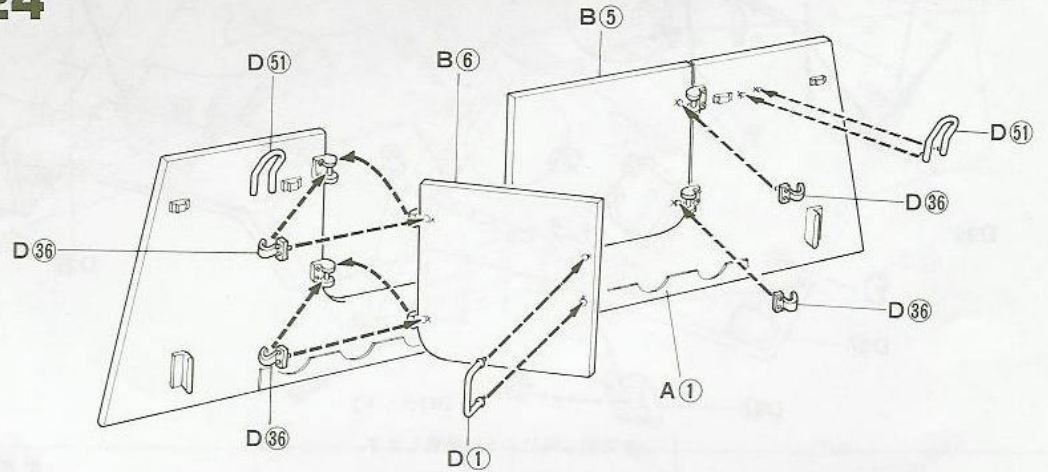
23



24 《後部扉の取り付け》

- B5、B6にD36を接着しながら、B5、B6をA1に取り付けます。
- (注)開閉できるように取り付けして下さい。
- D51、D1を図の所に接着します。

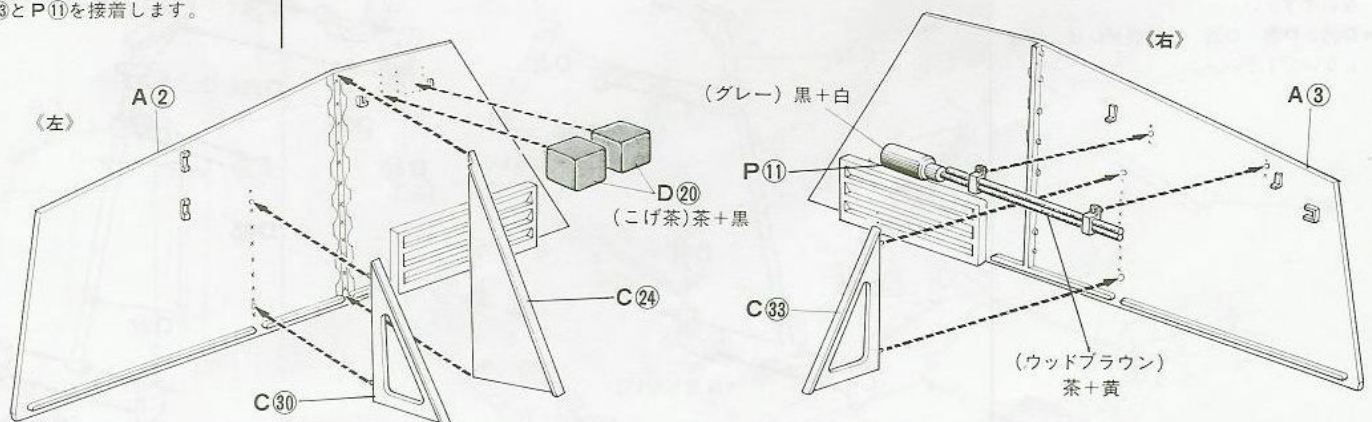
24



25 《装甲板の組み立て》

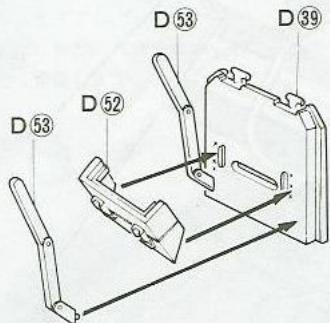
- A2にC24、C30、D20を接着します。
- A3にC33とP11を接着します。

25



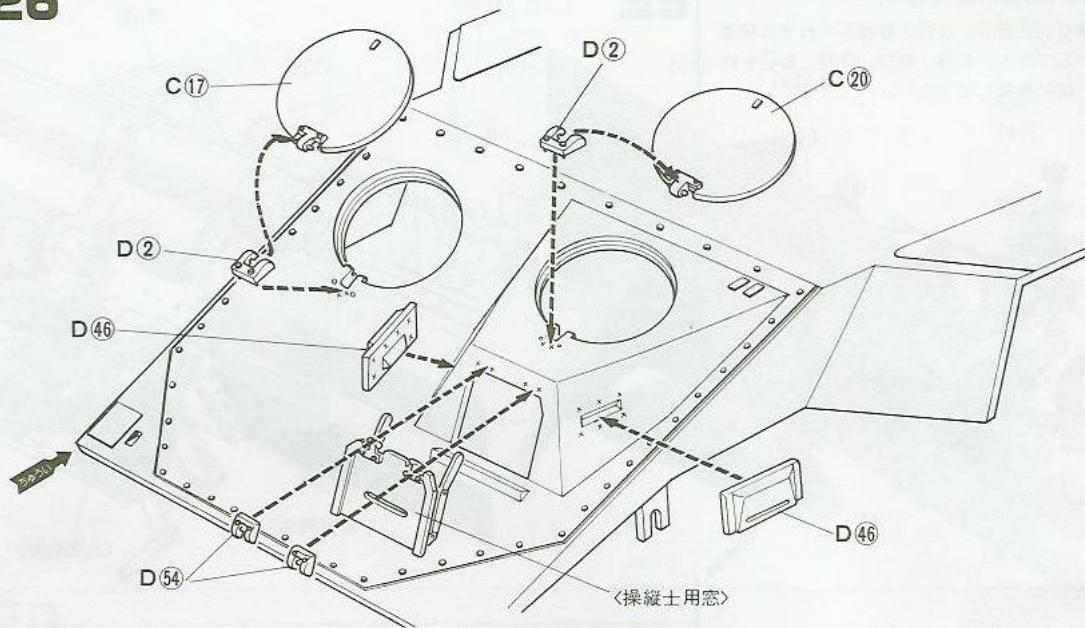
26 《ハッチの取り付け》

■ 操縦士用窓を下の図をみて組み立てます。



■ ハッチ類をボディに開閉できるように取り付けます。

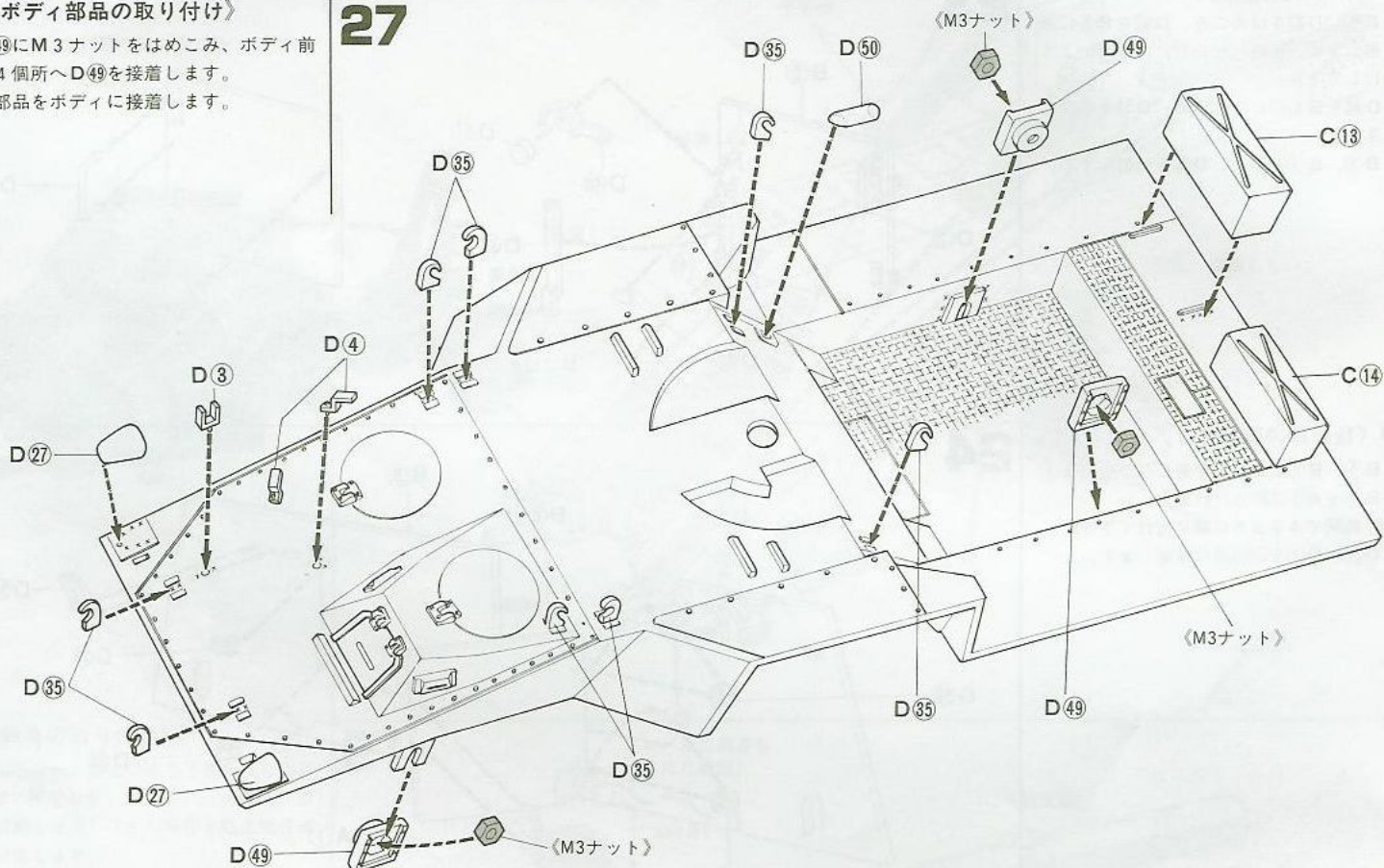
26



27 《ボディ部品の取り付け》

- D49にM3ナットをはめこみ、ボディ前後4箇所へD49を接着します。
- 各部品をボディに接着します。

27

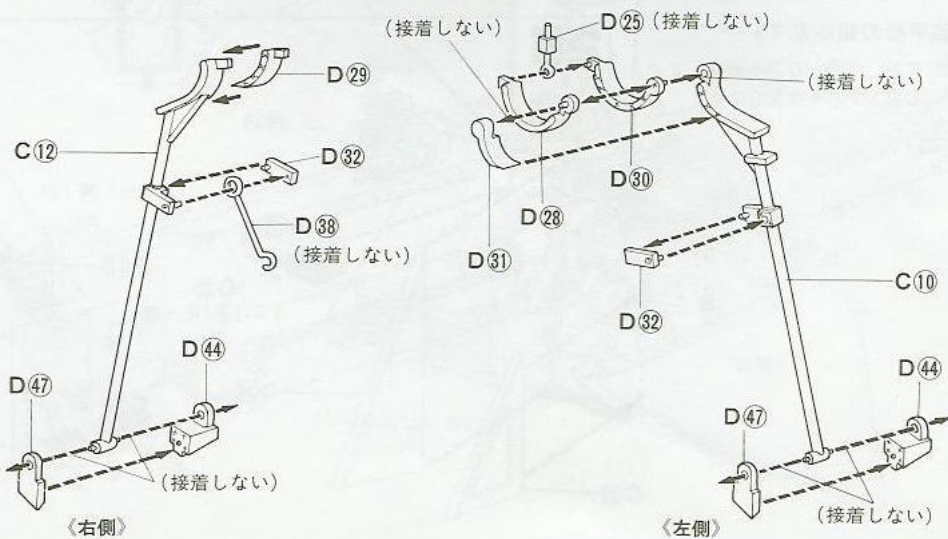


※ 右側も同じように接着します。

28 《砲身止めの組み立て》

- C12、C10を間にはさみながら、D44とD47を接着します。C12とC10は接着しないで下さい。
- D38、D25、D28、D30のピンは、接着しないで下さい。

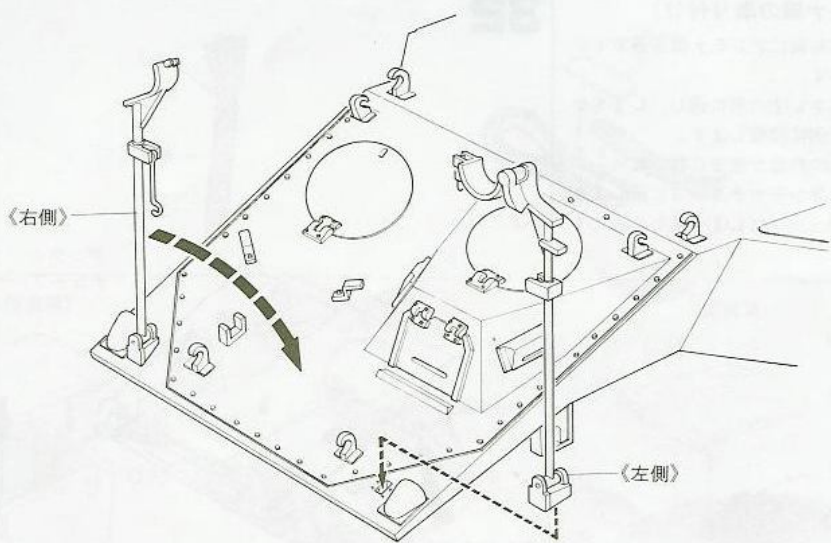
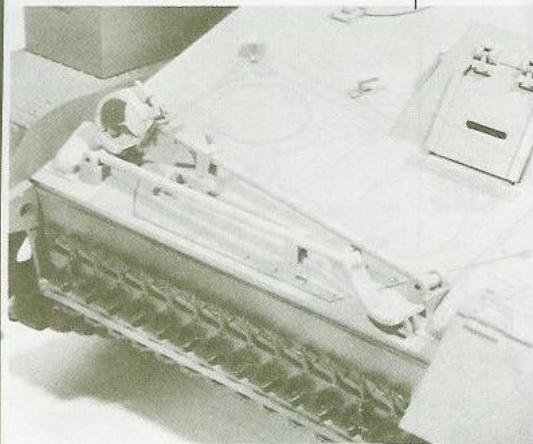
28



29 《砲身止めの取り付け》

- ボディ前部の四角の穴に、左右の砲身止めを接着します。

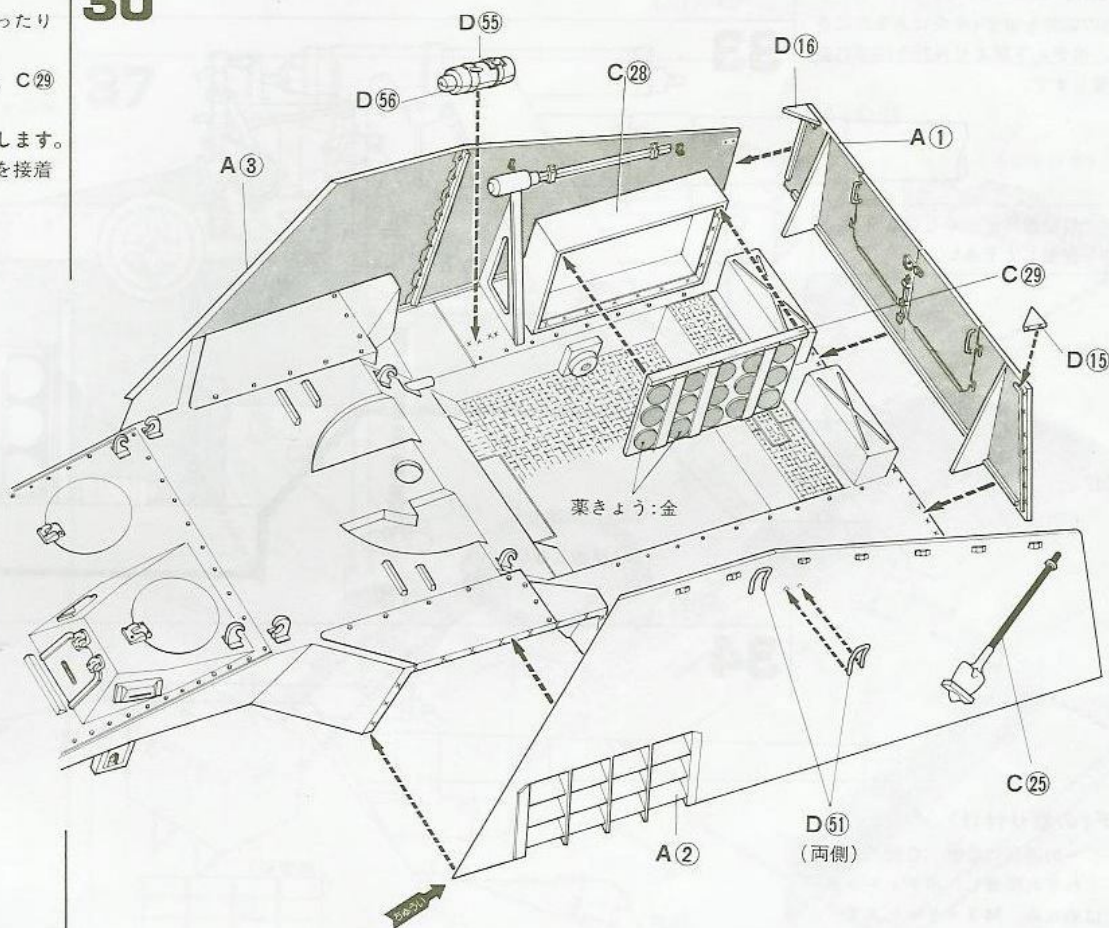
29



30 《装甲板の取り付け》

- 左右及び後部装甲板をボディにぴったり接着します。
- ボディの内側にD55、D56、C28、C29を接着します。
- ※ C29の葉きょうの部分は金で塗装します。
- 装甲板にC25、D51、D15、D16を接着します。

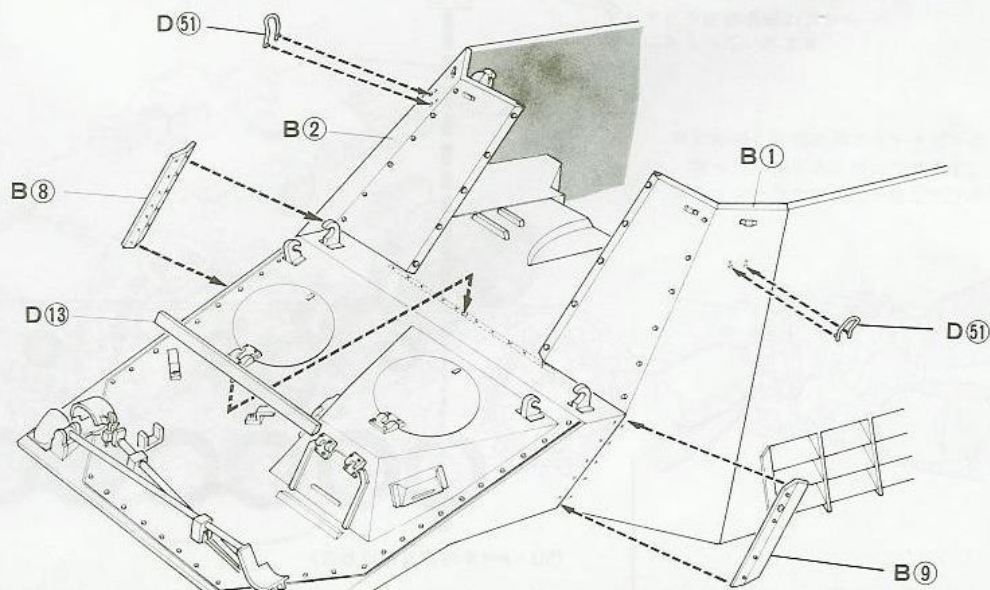
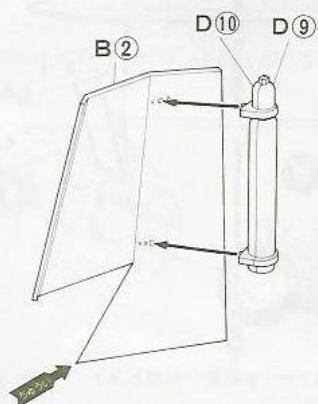
30



31 《前部装甲板の取り付け》

- B2にD9、D10を接着します。
- B1とB2をボディ及び側面の装甲板に合わせて接着します。
- 各部品を図の位置に接着します。

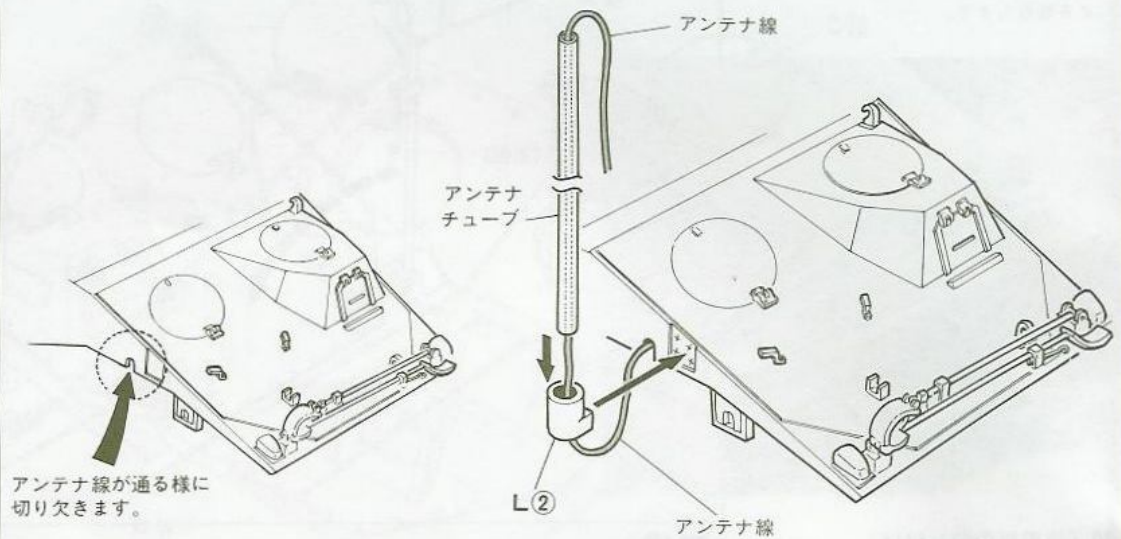
31



32

32 《アンテナ線の取り付け》

- ボディ上部右側にアンテナ線を通すミゾをつくります。
- アンテナ線をL②の穴に通し、L②をボディ上部右側に接着します。
- そしてL②の接着が完全に乾いたら、アンテナ線をアンテナチューブに通します。アンテナチューブはL②へ差しこんでください。



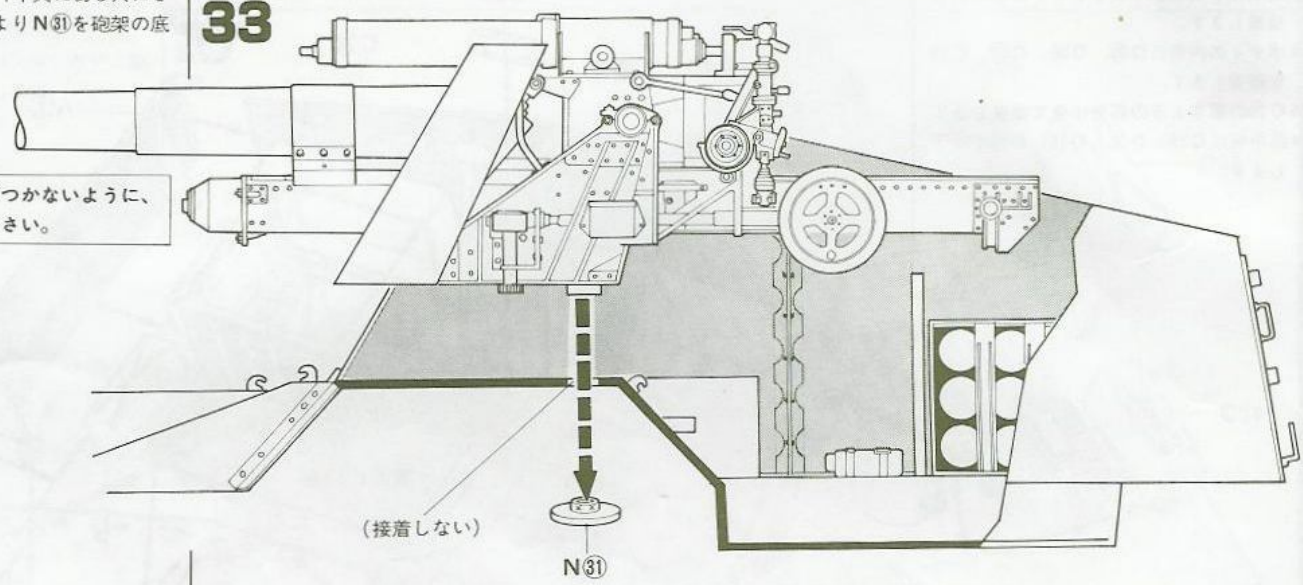
アンテナ線が通る様に切り欠きます。

33 《150mm砲の取り付け》

- 150mm砲の砲架をボディ中央にある穴にさしこみ、ボディ下部よりN③①を砲架の底部に接着します。

33

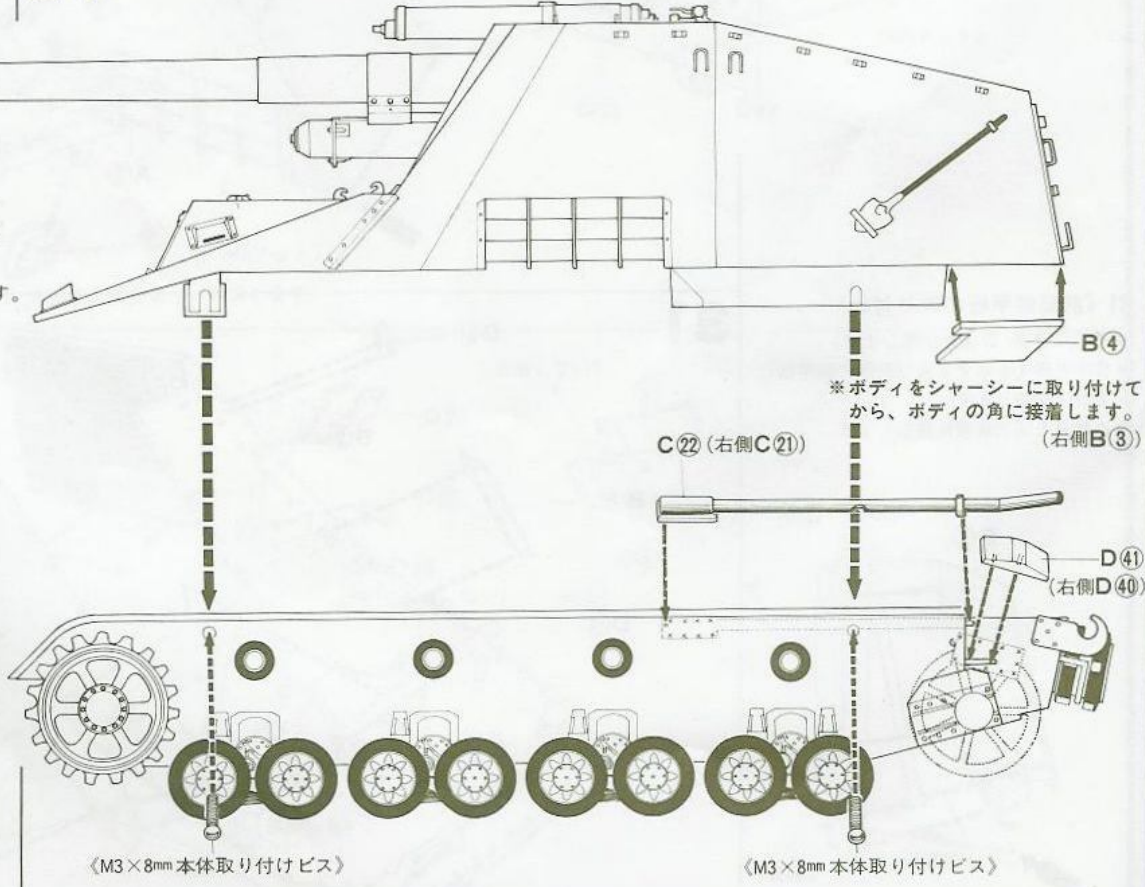
(注)ボディに接着剤がつかないように、N③①を接着して下さい。



34

34 《ボディの取り付け》

- シャーシーの両側にC②①、C②②、D④①、D④②をそれぞれ接着し、ボディをシャーシーにはめこみ、M3×8mmビスで、ボディをとめます。
- ボディ後部の角にB③③、B④④を接着します。



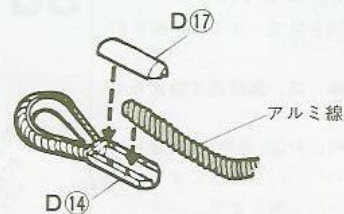
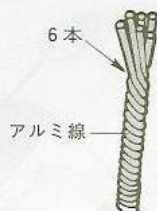
※ボディをシャーシーに取り付けてから、ボディの角に接着します。(右側B③③)

《M3×8mm本体取り付けビス》

《M3×8mm本体取り付けビス》

35 《ワイヤーロープの作り方》

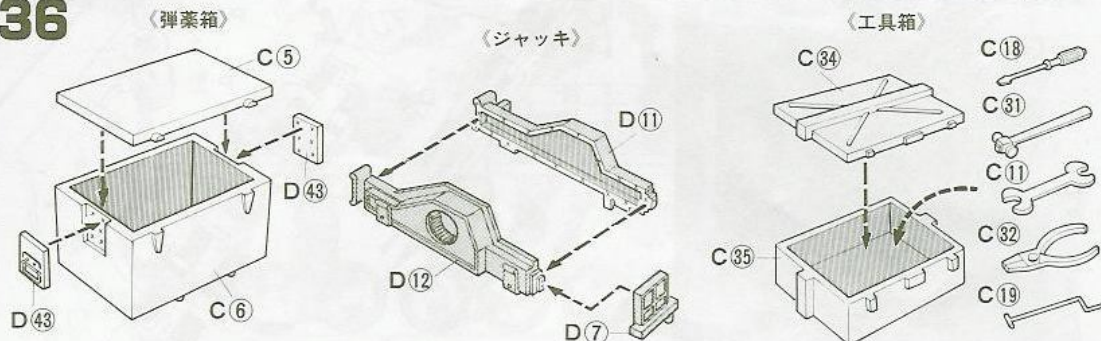
- アルミ線6本をまとめてねじっていきます。
- 両端にD14とD17を接着します。
- ※ワイヤーロープは2組作って下さい。



36 《装備品の組み立て》

- 左から弾薬箱、ジャッキ、工具箱をそれぞれ組み立てます。
- ジャッキは黒鉄色、工具類は銀で塗装します。

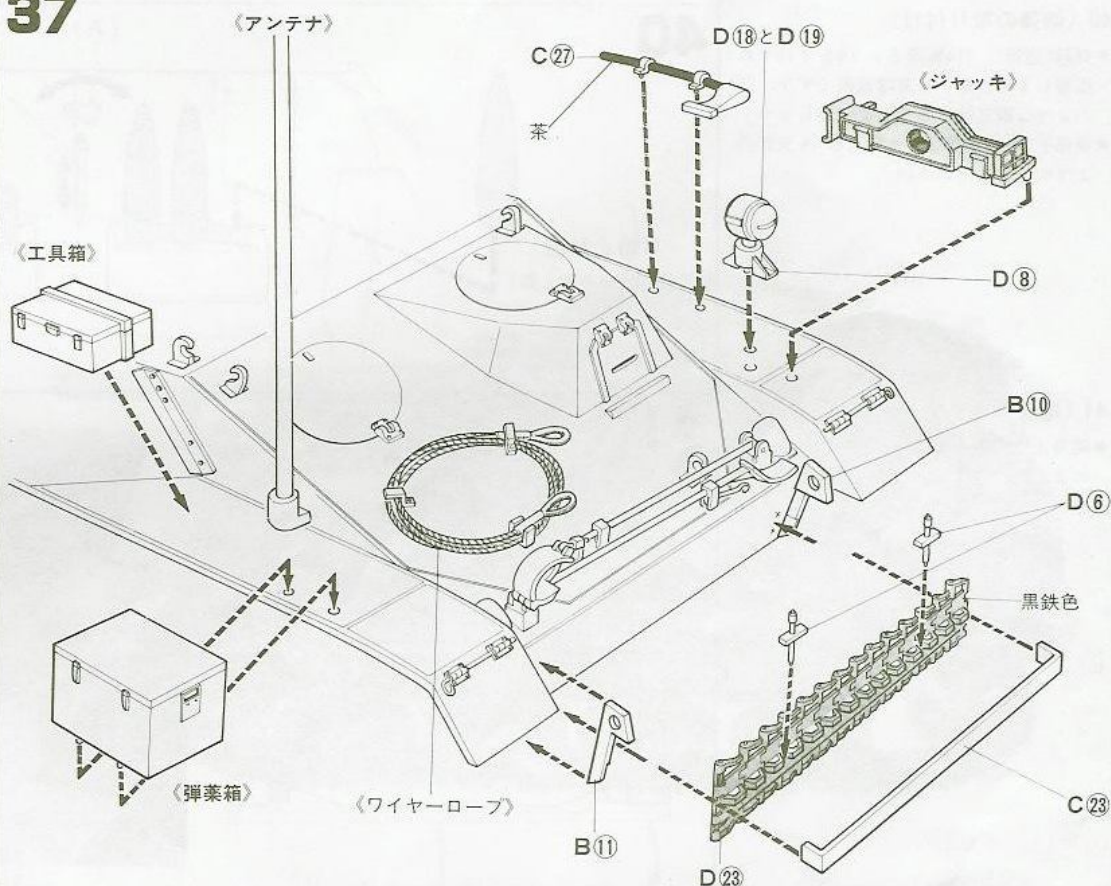
36



37 《装備品の取り付け》

- ワイヤーロープをまとめて、ボディに取り付けます。
- ※もう1組のワイヤーロープは、自分の好きなように利用してください。
- ボディに各部品を図の所に接着していきます。

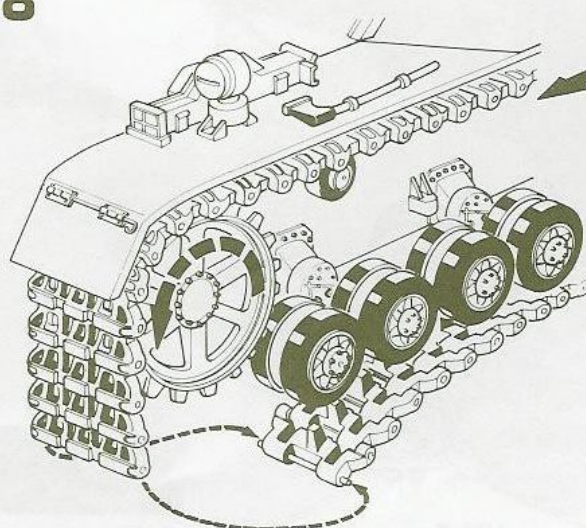
37



38 《キャタピラの取り付け》

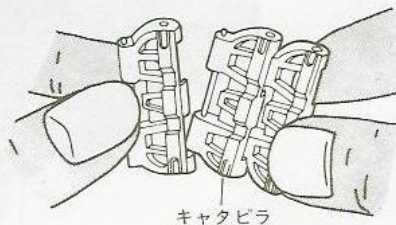
- キャタピラを1個づつはめこんでいきます。キャタピラの数はいずれも97個が適当です。
- ま横からでは、キャタピラは取り付けることができませんから、誘導輪の方から順々におくりこみます。そして起動輪の歯にキャタピラを合せていきます。
- 起動輪を矢印の方にゆっくりまわしていきます。

38



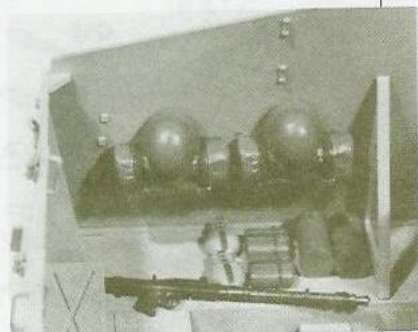
キャタピラは誘導輪の方から順々におくりこみます。

- 起動輪と転輪の間でキャタピラの取り付けをすと楽にできます。
- キャタピラの方に注意して下さい。

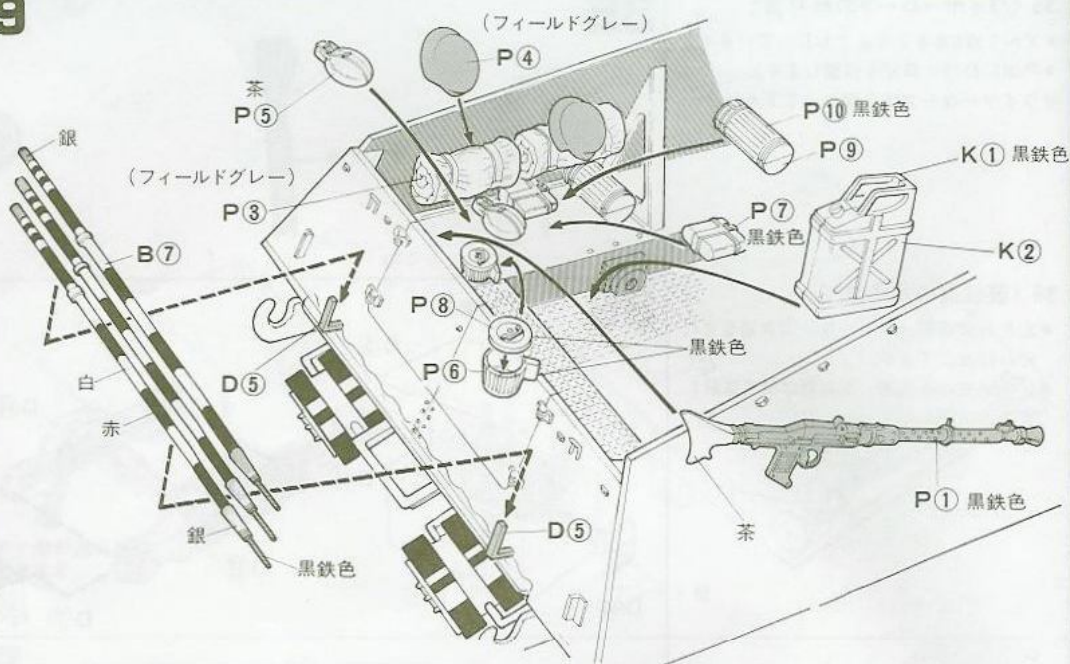


39 《アクセサリーの取り付け》

- 測量棒を右の図を見て、後部装甲板に取り付けます。
- ※ 測量棒は白、赤、銀、黒鉄色で塗装をします。
- 左装甲板の内側にP③(毛布)を接着し、上にP④(ヘルメット)を接着します。フィールドグレーに塗装します。
- ガスマスク、MG34、ジェリカン、水筒は自由に取り付けて下さい。



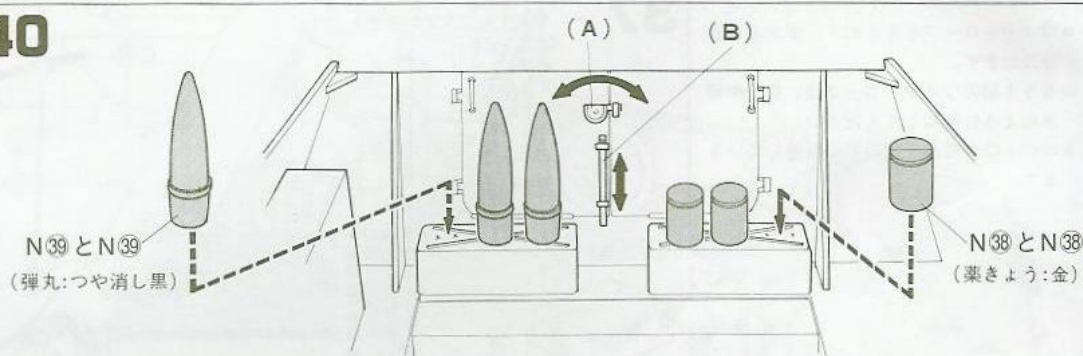
39



40 《砲弾の取り付け》

- N③⑨(砲弾)、N③⑧(薬きょう)をそれぞれ接着します。かざり方は自由ですが、図のような取り付け方でもよいでしょう。
- 後部ドアの開閉は(A)、(B)を矢印のように操作して下さい。

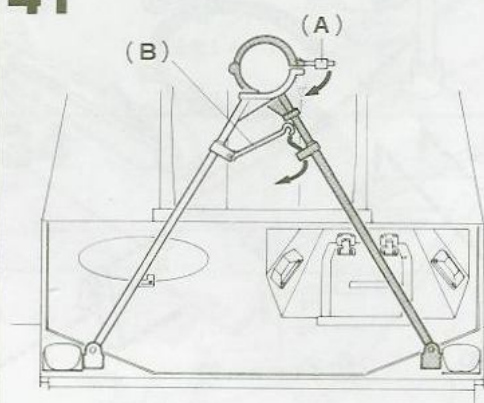
40



41 《砲身の止め方》

- 砲身止めに砲身をはめ、(A)(B)を矢印のようにかけて下さい。接着しないで下さい。

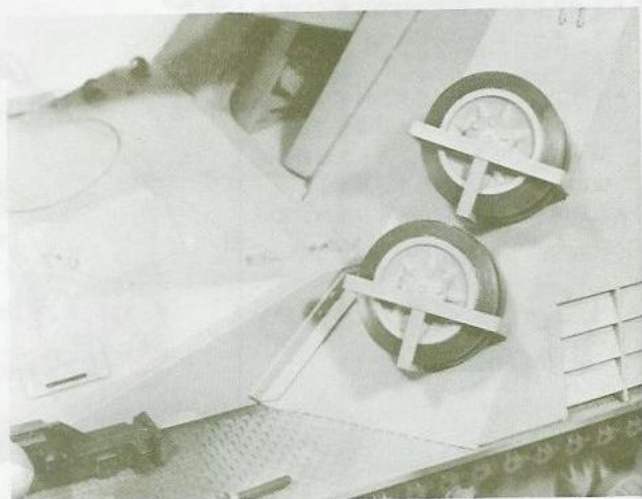
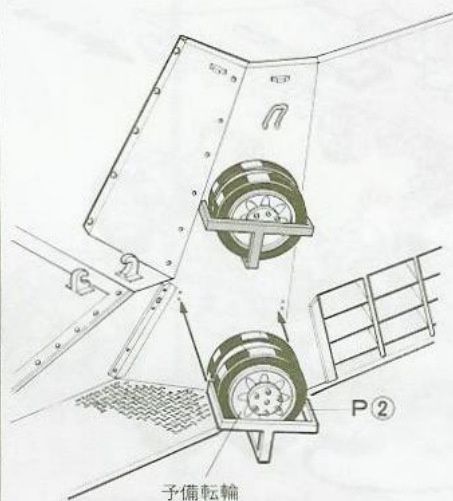
41



42 《予備転輪の取り付け》

- 予備転輪は左前部装甲板に取り付けます。これは、補助装甲のために取り付けられているものです。

42



塗装の説明

- ドイツの装甲戦闘車両には、さまざまな迷彩塗装がなされていた。基本色となったのは、サンドとジャーマングレーで、その上に、ダーク・グリーンやレッドブラウンの迷彩がなされていた。それが縞模様になったり斑点になったりしたようで、規定があったわけではない。フンメルの場合は、サンド単色か、サンドにダークグリーンとレッドブラウンの迷彩のものが数多く見かけられ、中には雪の中の戦闘の場合で、全体にウインターホワイトが塗られていた。
- 成型色をほぼ実車の色に近づけてありますが、塗装した方がより迫力があります。
- きれいに仕上げた戦車もすばらしいけど汚れるべき箇所は、汚れ塗装をした方が迫力は倍加します。



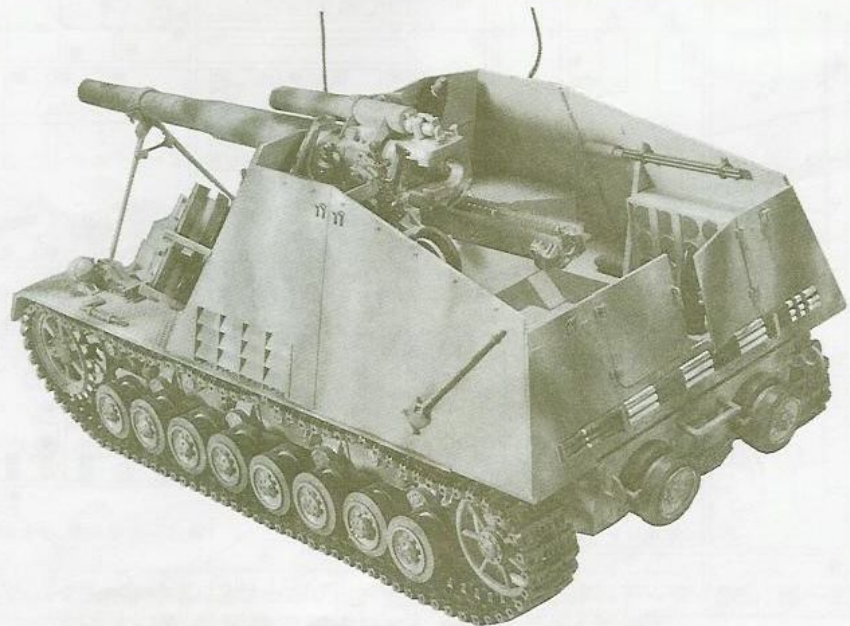
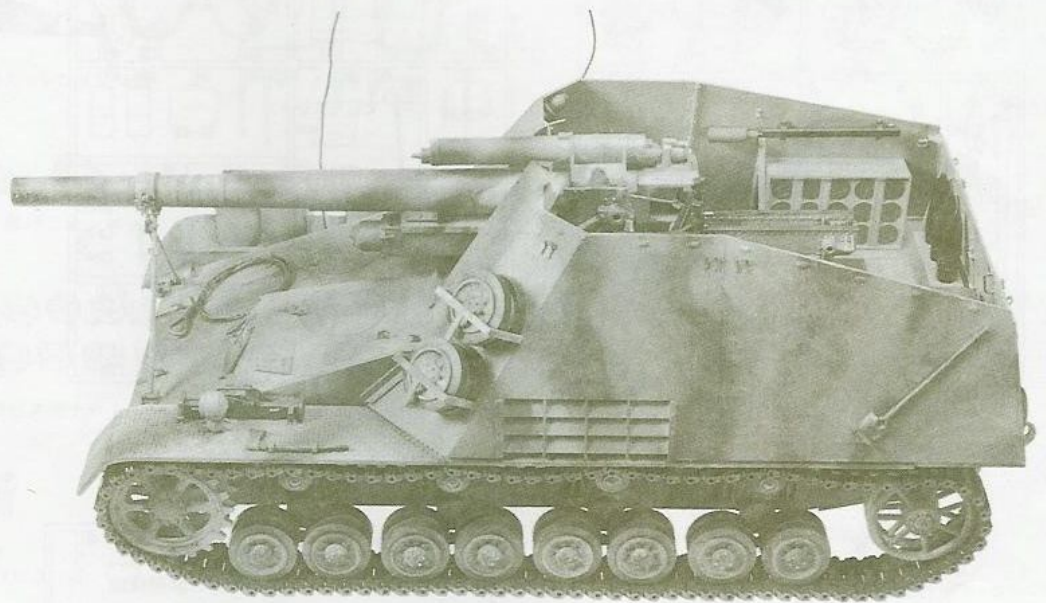
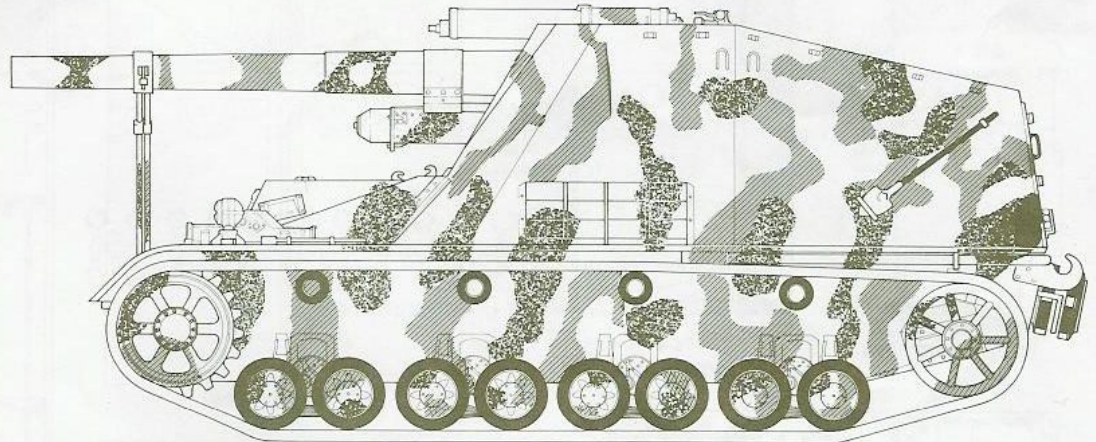
ダークグリーン



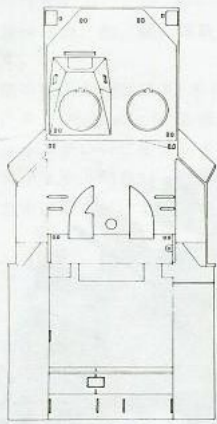
レッドブラウン



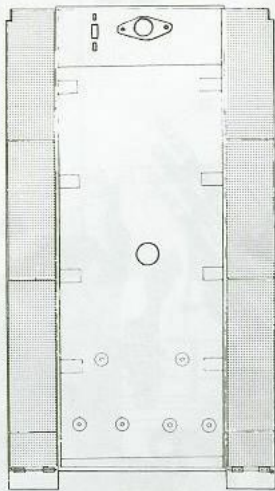
サンドイエロー
又は
ジャーマングレー



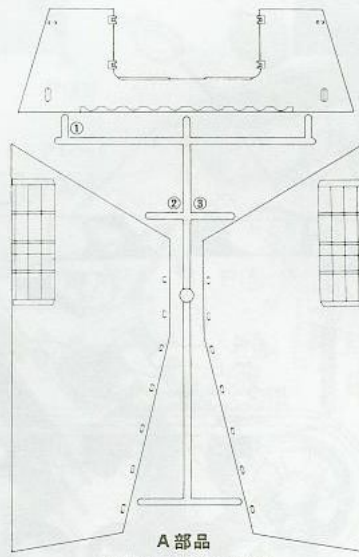
部品図



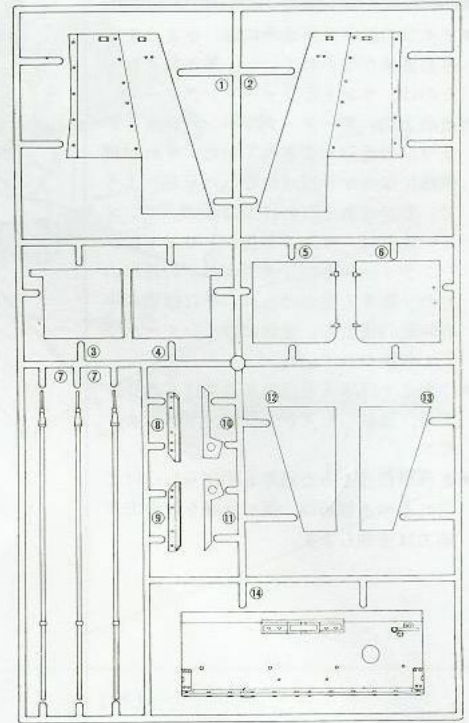
ボディ
(スチロール樹脂: PS)



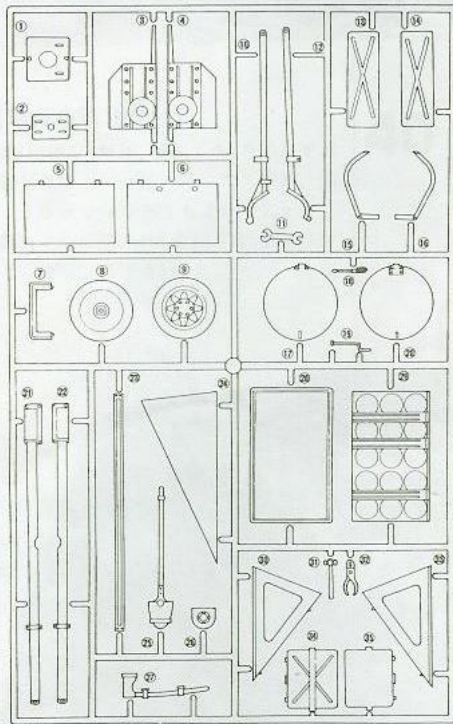
シャーシ
(スチロール樹脂: PS)



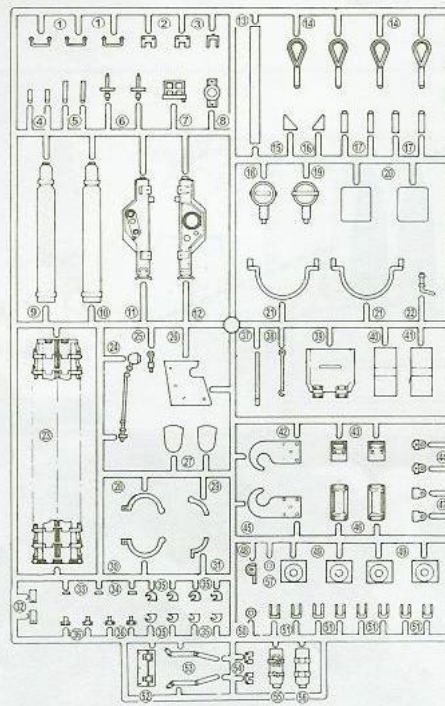
A部品
(スチロール樹脂: PS)



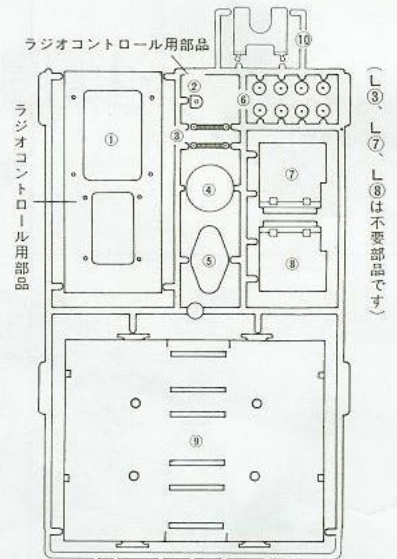
B部品
(スチロール樹脂: PS)



C部品 (スチロール樹脂: PS)
(C1、C2、C3、C4、C8、C9、C28は不要部品です。)

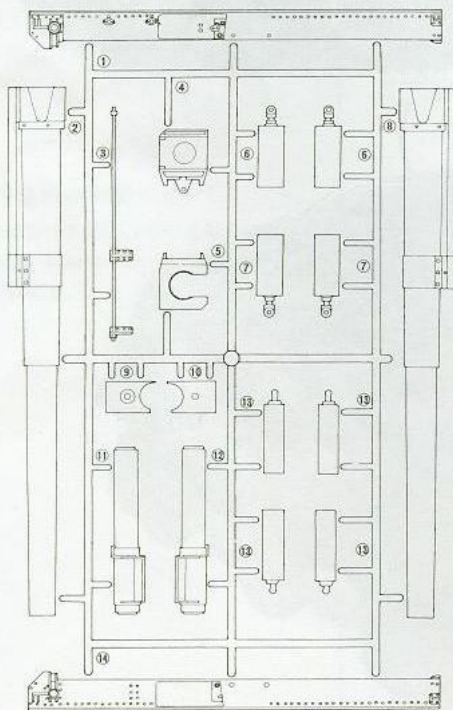


D部品
(スチロール樹脂: PS)

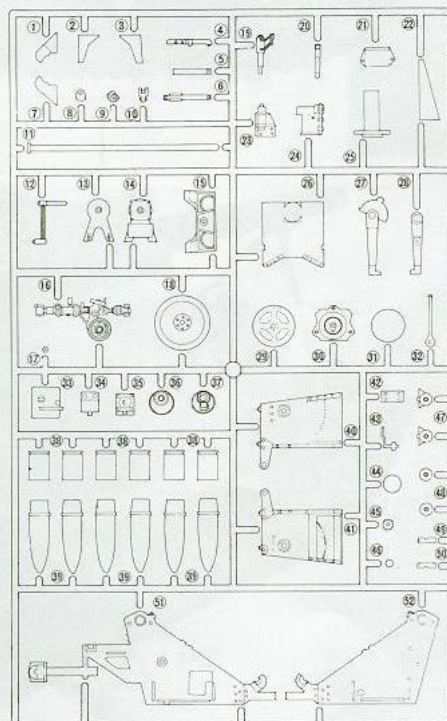


L部品
(スチロール樹脂: PS)

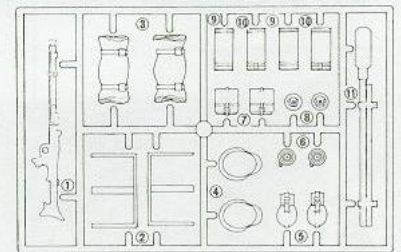
(L3、L7、L8は不要部品です)



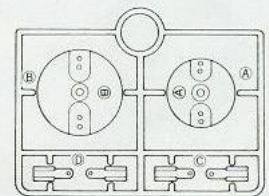
M部品
(スチロール樹脂: PS)



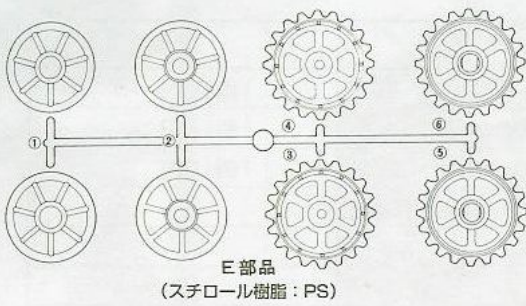
N部品
(スチロール樹脂: PS)



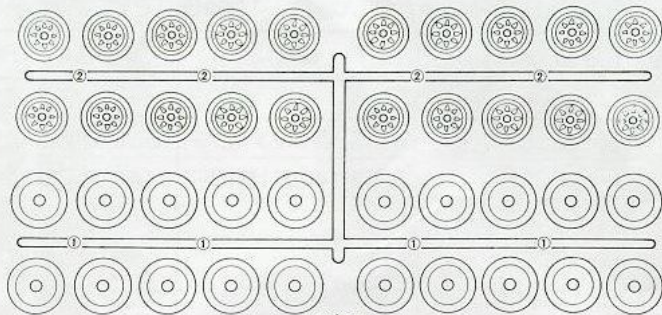
P部品
(スチロール樹脂: PS)



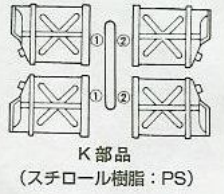
スイッチ板部品
(スチロール樹脂: PS)



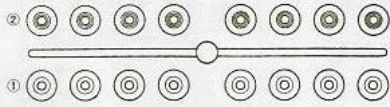
E 部品
(スチロール樹脂: PS)



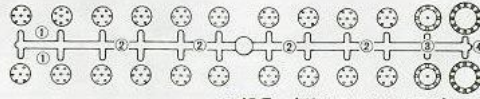
F 部品
(スチロール樹脂: PS)



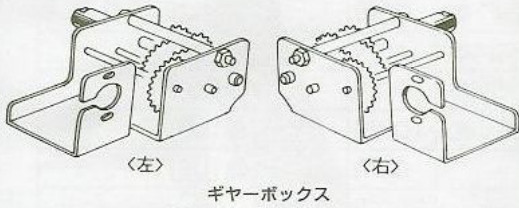
K 部品
(スチロール樹脂: PS)



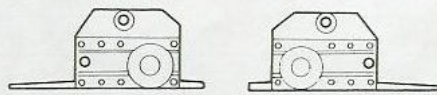
G 部品 (スチロール樹脂: PS)



H 部品 (ポリエチレン: PE)



ギヤボックス

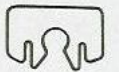


誘導輪軸(左)

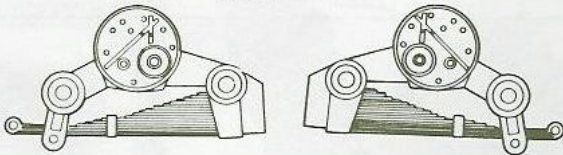
誘導輪軸(右)



転輪用タイヤ 40個
(合成ゴム)

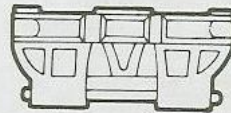


サスペンション止め 8個
(POM)



右側サスペンション 4個

左側サスペンション 4個



キャタピラ 200個
(ポリエチレン: PE)



電池受け金具



サスペンション用リベット



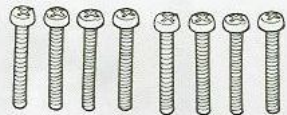
モーター用ピニオンギヤ



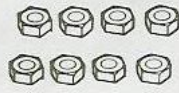
六角穴付
ホーロービス



ワイヤー用(アルミ線)



M3×22mm遊輪取付ビス



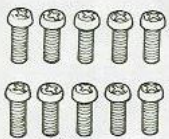
M3ビス用ナット



遊輪用ハトメ



電池ボックス用ゴムバンド
(天然ゴム)



M3×8ビス



M3×10mm
誘導輪軸取付ビス



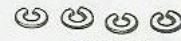
M4×10mm
起動輪取付ビス



M3ビス用ワッシャー(小)



M4ビス用ワッシャー



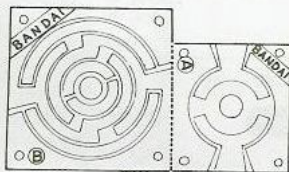
M3ビス用
スプリングワッシャー



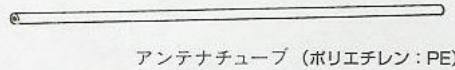
M4ビス用
スプリングワッシャー

●スライドマーク……1

《ラジオコントロール専用》金具部品



プリント基板



アンテナチューブ (ポリエチレン: PE)



サーボロッド



ビニールチューブ
(塩化ビニル樹脂: PVC)



両面テープ



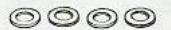
M3×10mmビス



M3ビス用ナット



M3ビス用
スプリングワッシャー



M3ビス用
ワッシャー(大)



M2×6ビス
(プリント基板止め、サーボホーン用)



M2ナット
(プリント基板止め、サーボホーン用)



接点金具

2チャンネル、2サーボの送・受信機、RS-380PHモーター2個、単一乾電池(R20 P)6本、送・受信機用電池は別にお買い求めください。

《料金表》●プラパーツで備考に価格指示が無い場合、1個40円です。

部品名及び部品番号		備考	部品名及び部品番号		備考
<プラパーツ>			M4ビス用ワッシャー(2個)	20円	1個10円
Aパーツ(1~3)	800円	A-1/1個150円,A-2,3/1個350円	M3ビス用スプリングワッシャー(4個)	40円	1個10円
Bパーツ(1~14)	800円	B-1,2,14のみ1個100円	M4ビス用スプリングワッシャー(2個)	20円	1個10円
Cパーツ(1~35)	800円		スライドマーク	100円	
Dパーツ(1~56)	800円		<ラジコン部品>		
Eパーツ(1~6)	300円	1個40円	プリント基板	1,000円	
Fパーツ(1~2)	800円		アンテナチューブ	70円	
Gパーツ(1~2)	300円		サーボロッド(2個)	200円	1個100円
Hパーツ(1~4)	300円		ビニールチューブ	40円	
Kパーツ(1~2)	150円		両面テープ	40円	
Lパーツ(1~10)	700円	L-1/1個100円,L-9/1個300円	ビス:M3×10(2個)	20円	1個10円
Mパーツ(1~14)	800円	M-1,14/1個100円,M-2,8/1個200円	ナット:M3(2個)	20円	1個10円
Nパーツ(1~52)	1,000円		M3ビス用スプリングワッシャー(2個)	20円	1個10円
Pパーツ(1~11)	400円		ワッシャー:大・M3ビス用(4個)	40円	1個10円
スイッチ板部品(A~D)	200円		プリント基板止め・サーボ用ビス:M2×6(10個)	100円	1個10円
ボディ	800円		プリント基板止め・サーボ用ビス:M2(10個)	100円	1個10円
シャーシ	1,500円		接点金具(6個)	60円	1個10円
<金属部品>			組立説明書	300円	200円
ギヤーボックス(右・左)	1,600円	1個800円			
誘導輪軸(右・左)	200円	1個100円			
サスペンション(右・左各4個)	500円	左右各4個/1個70円			
転輪用タイヤ(40個)	1,000円	1個30円			
サスペンション止め(8個)	80円	1個10円			
キャタピラ(200個)	1,500円	1個10円			
電池受け金具A(2個)	60円	1個30円			
電池受け金具B	30円	1個30円			
電池受け金具C	30円	1個30円			
電池ボックス用ゴムバンド(2個)	40円	1個20円			
サスペンション用リベット(8個)	80円	1個10円			
モーター用ピニオンギア(2個)	100円	1個50円			
モーターギア止め用ネジ(2個)	20円	1個10円			
ワイヤー用(アルミ線)	100円				
遊輪取付ビス:M3×22(8個)	80円	1個10円			
ナット:M3(8個)	80円	1個10円			
遊輪用ハトメ(16個)	160円	1個10円			
ビス:M3×8(10個)	100円	1個10円			
誘導輪取付ビス:M3×10(4個)	40円	1個10円			
起動輪取付ビス:M4×10(2個)	20円	1個10円			
M3ビス用ワッシャー小(4個)	40円	1個10円			

《送料》

重量	料金
50gまで	120円
100gまで	140円
150gまで	200円
250gまで	240円
500gまで	390円
2Kgまで	750円

《ご購入のお客様へ》部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号/番号/数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様の名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。為替証書は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県静岡市清水西久保305 TEL0543-65-5315

・電話受付時間 月~金曜日(祝日を除く)10時~16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようご注意ください。

2004.8/T・TO 再

For Japanese use only.

部品注文カード 0053467-16000
1/15SCALE 2004.8再

ドイツ4号“フンメル”

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわした/なくした)

・日中ご連絡可能な電話番号・年齢
(- -) (才)

※コピー使用可